

萬國貨幣會議誌  
千八百七十八年

第一号

大藏省  
翻譯課

350





114  
A1423  
1

萬國貨幣會議誌正編



第一回會議日誌

茲一千八百七十八年八月十日(土曜日)午後第一時三十分ヨリ

佛蘭西國巴里斯府外務省ニ於テ埃斯太洪葛利、白耳義、佛蘭西、伊  
太利、和蘭陀、魯細亞、瑞典、瑞西及ヒ亞米利加合衆國ノ代議者相會  
シタリ其日臨席ノ面々ハ即チ左ノ如シ

埃斯太洪葛利ヨリ ヴァオン、ヘンゲル、ミルラル氏

白耳義ヨリ ポルメツ氏及ヒガアニエル氏

佛蘭西ヨリ レオン、セイ氏、チャールス、シヤゲルシミット氏、

ニコロ氏

伊太利ヨリ カウント、ラスコニイ氏、バラリス氏及ヒレスマン

氏

和蘭陀ヨリ ミイス氏

村山三郎譯

大正十一年四月

歳首



魯細亞ヨリド、ソワールナル氏

瑞典及ニ耶威ヨリドクトル、ワーン氏及ヒプロック氏

スウツラントヨリラアデイ氏

亞米利加合衆國ヨリフエントン氏、ダロースベック氏及ヒウ

オーカル氏

當下フエントン氏、弥ヨ會議ヲ開クヘキヲ陳告シ且ツ同氏が  
動議ニ基キ衆皆ナ佛蘭西大藏卿レオンセイ氏ヲ擧テ議長トナ  
シタリ此ニ於テ同氏即チ議長ノ席ニ登リ自ラ佛蘭西國ノ名ニ  
憑リ悉ク他國ヨリ來會サレタル諸代議者ニ就テ真ニ慰勞ノ情  
ヲ陳了シ併セテ諸氏ノ選舉ニ依リ本會議中始終議長トナリテ  
議論ヲ聞クヘキノ榮譽ヲ忝フシタルヲ謝セラレタリ同氏又  
曰ク抑モ向後本會ニ於テ主トシテ議セント欲スル一事ハ莫ク  
實地ニ涉リ且ツ之ヲ解スルノ難キ久シク社會中ニ種々ノ紛議

ヲ生シタリト雖モ未タ遂ニ其決ヲ得ル能ハサリシ程ノ難目ナ  
レハ今互ニ精神ヲ勵マシテ其議論ニ掛テハ畢竟經濟學上ノ大  
進歩ヲ奏スルニ至ラント更ニ疑ヲ容レサルヘキナリ然リ而シ  
テ不肖亦各國ヨリ來臨サレタル齊シク實驗ノ功ニ富ミ其名天  
下ニ著シキ諸君子ト共ニ同シク其事ニ與ルヘキノ名譽ヲ得タ  
ルハ竊ニ自慢ニ堪サルヲナリト

統テレオンセイ氏ノ動議ニ依リ衆皆ナ合衆國委負ノ席長ナル  
フエントン氏ヲ推シテ副議長トナシタリ

佛蘭西一等領事官アルニストクラムボン及ヒ國會旁聽定員兼  
大藏書記官ヘンリー、ジャゲルスミッドノ二氏ハ本會議ノ書  
記官ニ任ヤラレタリ如斯ク會議ノ順序既ニ備ハリ最早ヤ議論  
ニ取掛ルトモ更ニ差碍リナキマテニ運ヒタレハ議長レオンセ  
イ氏左ノ演說ヲナシタリ



謹テ諸君ニ白フス抑モ今回此會議ヲ開クノ趣意ハ何レニ在  
ルカ且ツ亜米利加合衆國ハ他國ニ先ニシテ此度ノ拳アラン  
一ヲ動議シ随テ同國ヨリ此會議ノ評論ニ附シタル議題ノ如  
何ハ併ヤテ諸君ノ熟知スル処ト思ハル又彼ノ羅匈貨幣聯邦  
ヲ結成シ且ツ其貨幣上西立ノ本位ヲ保存セル彼ノ五ヶ國  
敢テ銀貨ニ許スニ通用貨トシテ以テ法律上負債ヲ辨償スル  
ニ足ルヘキノ効力ヲ以テシナカラ側ラ右貨幣ノ鑄造量額ヲ  
制限スル一極メテ嚴シク且ツ先年ノ如キハ全ク其鑄造ヲ停  
止スルノ舉アリシハ果シテ事情如何ナル故カヲ了知セサル  
ヘシ

蓋シ曩キニ日耳曼國ニ於テ一金ヲ以テ貨幣ノ本位ト定メ  
タル一事ハ其実亜米利加鑛山ノ其銀ヲ出スノ過キタル一  
シク畢竟不便ノ基ニシテ之カ為メ將來必ス彼ノ羅匈聯邦ヲ

ハ困厄ノ中ニ陥ラシムルニ至ルヘキノ兆アリシニ由リ彼ノ  
聯邦ハ夙ニ自ラ顧ミル処アリテ自防ノ方策ヲ定ムヘキニ  
ヲ知リタルニ非スヤ  
日耳曼ハ賣却スヘキ多量ノ銀ヲ有スルヲ自覚シタリ而シ  
テ彼國ニシテ弥ヨ之ヲ賣却ヤント欲ヤハ早晚其主意ヲ達シ  
得ヘキ一必定ナリキ然ルニ實際既ニ夫レ之ヲ為シタル一  
許ナルヤ且ツ夫レカ為メ該鑛屬ノ價ヲ下落セシメタル一  
何計リナルヤノ疑問ハ曾テ豫メ之ヲ解知シ難ク今日ニ至ル  
ト虫モ尚ホ確然之ヲ明言スル一能ハサルナリ彼ノ英吉利斯  
國貨幣制度ノ如キハ其歐羅巴ニ在テハ金ヲ以テ本位トナシ  
亞細亞ニ在テハ銀ヲ取レリ蓋シ彼ノ國ニ於テハ豫メ遂ニ貨  
幣市場ニ困難ノ及ニ來ルヘキヲ量知シタルカ或ハ實際其及  
ニタルニ由テ始テ之ヲ曉リタルカヲ問ハス要スルニ此点



注意スル処深クシテ曾テ彼ノ有名ナルコスチン氏之ヲ擔當  
シ頻リニ穿鑿ヲ施シタルヲアリ然レモ其得タル処ハ一日  
耳曼國ニ於テ愈ヨ其所有セル銀ヲ賣却スルノ所存ヲハ充分  
實地ニ遂ケ終リタル時ニ至ラサレハ果シテ銀價ノ下落ハ何  
レノ処ニ根スルヤヲ了解シ難シト云フニ過サリキ蓋シ事  
ナ如此キ冥々ノ中ニ在リテ強ヒテ事ヲ為サント欲セハ甚シ  
キ危険ヲ踏ムヘキヲ以テ彼ノ羅甸聯邦ノ如キハ愛テタクモ  
遂々トシテ將來ヲ窺フ者ノ如シ

一方ニ當リ亞米利加合衆國ハ既ニ從前ニ立還リ彼ノ西立本  
位ノ制ヲ採用シ又從前ニ倣フテ彼ノ西立本位間ノ割合ヲハ  
一ト十六ニ定メタリ但シ其時マテハ今日彼ノ羅甸聯邦間ニ  
行ハル、如ク一ト十五半ノ割合ナリキ而シテ此時復々彼  
ノ鑄造ヲ創メタレモ同時其量ヲ制限シタリ遂ニ彼ノ國議會

ニ於テ華聖頓府ノ内閣ニ勸メ外國政府ト謀リ各國ニ於テ金  
銀ノ割合ヲ一定シ之ヲ國際ニ施サシメンコトヲ決議シタ  
諸君以上説ク処ハ即チ當會議ヲ開クノ原因ナリ夫レ然リ故  
ニ合衆國ヨリ臨會サレタル代議者ニ就テ願クハ彼ノ國政府  
ノ所見及ヒ所存ヲ將テ余輩カ為メ之ヲ告ケラレンコトヲ請  
フ左スレハ之ニ倣フテ當會ノ論目ヲ定メ得ヘク若シ又時宜  
ニ依リ之ニ基<sup>ツ</sup>ビテ數項ノ問題ヲ設ケ以テ今後當會ニ於テ評  
議スヘキ論案ノ秩序ヲ定ムルコトアラハ幸甚

斯ク演説シ畢テ議長ヤイ氏ハ合衆國委員長フエントン氏ヲ招  
マレタリ即チフエントン氏其席ヲ起テ左ノ如ク演説セリ  
謹テ議長閣下及ヒ諸君ノ諸君ニ白クス此度ハ實ニ初會ト云  
々且ツ今回本會ヲ開クカ為メ其招キニ應シタル諸國ノ代議  
者ノ中未タ其到着セサルノ面々多キヲ以テ余輩ハ我カ議長



閣下カ過刻余輩ヲ待ツノ叮嚀親懇ナル言語ニ對シ謝辞ヲ  
述フルノ外深ク茲ニ辨舌ヲ費サ、ルヲ期セリ  
然レ共抑モ今回ノ事タル我カ合衆國政府ヨリ歐羅巴諸國ノ  
政府ニ就テ之ヲ言ヒ入レ共ニ協力シテ本會ヲ贊ヲラレン  
ヲ請ヒタルニ幸ニシテ諸政府之ニ應シラレタルカ故ヲ以テ  
苟モ合衆國ノ代議者トシテ會議ノ末席ヲ忝フスル余輩ハ敢  
テ我カ國政府ヨリ幸ニ其招キニ應ヤレタル諸國政府ニ對  
シテ致スヘキノ禮辞ヲ施サ、ル可ラス固ヨリ余輩ハ當ニ本  
會ノ開設サレタル源由即チ天下同胞ノ人民カ共同康福ヲ敬  
重スルノミニ止マラス併セテ斯ル大事ヲ評議センカ為メナ  
リトテ各國ヨリ皆チ有名ナル諸君子ノ來臨アツテ茲ニ集會  
スルヲ得ルハ畢竟本會ノ趣意ヲ遂シトヲ期スルニ於テ自  
不足トスル處ナキヲ喜ヘリ

嗚呼今日開明ノ時運ニ際シテハ政府ト人民ト相保翼スルハ  
當ニ平和ヲ保存ヤンガ為メ而已ナラス尚ホ一世ノ技藝工  
ノ進步ヲ謀レハナリ是レ實ニ喜フヘキ事ナラスヤ然リ而シ  
テ今余輩ノ此處ニ來テ相見ルノ時ハ即チ廣ク歐羅巴大陸中  
近來ノ平和ヲ謠フノ声ヲ聞クニ適シ又此都府ニ於テ目下全  
世界ノ進步ヲ親視スルニ宜シ實ニ歐羅巴國ノ諸君ハ前後左  
右治世ノ康福ヲ具エナカラ又加フルニ今回ノ舉ヲ贊成シテ  
萬國共同康福ニ関スルヲ最モ甚シキ事業ニ尽力セラレント  
スルノ大愉快ハ余輩合衆國人ノ竊ニ羨ミ為メニ祝賀スル處  
ナリ  
九ツ年々歳々萬國交商上ノ關係益々一定確立スルノ美跡ヲ  
見ルハ單ニ人間開化ノ進達ヲ知ルニ足レリ即チ時ヲ追テ豫  
ヨ明カニ國際利益ノ共同平均ニ赴クヲ實視シ萬國互ニ其交



際上親誼実情ヲ重ニスルノ美風ヲ起シ来ルヲ覺ユ然リ而  
テ斯ル事情ノ中ニ在テハ若シ國際通貨交換共同一定ノ制度  
アリハ必ス之ヨリ生スル処ノ利益必ス大ナランコトヲ冀望ス  
ルノ念ハ之ヲ禁セント欲スルモ到底能ハサルナリ  
凡ソ人間社會ノ經驗ニヨリ彼ノ貴重ナル二種鑛屬ハ常ニ天  
下ノ通貨トシテ尊重サレタリ而シテ歴乘ニ就テ之ヲ証スル  
トキハ彼ノ二種鑛屬カ曾テ物界開化ノ前路ニ於テ經濟上ノ  
功勳ヲ奏セシコト亦大ナリトス蓋シ人間ノ為メ無二ノ忠勤物  
ナリ今我カ政府ノ所見ニ基ヒテ之ヲ云フキハ彼ノ二鑛物ハ  
縦ニ必シモ常ニ相平均スルコト能ハサルモ成犬ケ相共ニ之ヲ  
保存ヤンコトヲ務ムヘク又之ヲ務メテ決シテ其功能ナキヲ見  
サルヘシ尤モ此ノ点ニ付テハ一般ニ彼ノ二鑛物カ互ニ相付  
翼シテ其功ヲ奏シタルノ例史乘ニ就テ瞭々之ヲ發見スヘク

且ツ永久兩者ノ間ニ能ク平均ヲ有テタルノ例亦多シ固ヨリ  
流通貨幣ノ潮度ハ或ハ高ク或ハ低ク又一國理財ノ政術ハ二  
幕ニ变革セサルコトヲ保シ難シト虽モ抑モ余輩カ知ル処ニ依  
レハ一般開明社會ノ理財制度上ニハ必ス幾分カノ割合ニテ  
以上二鑛屬貨幣ノ相而立スヘキヲ要スルニ相違ナシ今余輩  
カ主トシテ之ヲ唱エ且ツ議負諸君ノ單ニ之ニ同意アラシコ  
トヲ冀望スルノ事柄ハ即チ以上兩鑛屬貨幣ノ割合ヲ定メ且ツ  
其狂動セサルコトヲ保スルハ實地上必ス行ハレ難キニ非ス又  
萬國一定ノ基憑ヲ立ルニ於テハ決シテ以上兩鑛屬ノ其國際  
使用ノ道ニ於テ障礙ヲ生スルノ憂ナカルヘキコト是ナリ  
今暫ク諸君カ此点ニ付テ如何ナル所見ヲ下サレルヤヲ問ハ  
ス余輩ハ今回ノ會議ニ臨ムニ際シ我カ政府ヨリ下サレタル  
吩咐即チ法律ノ語字ヲ借りテ本會議ノ目的ヲ言ハント欲フ



則テ本會議ハ必ス各國ノ際ニ兩立鑛屬貨幣ノ制度ヲ起サ  
カタメ随テ兩者相当ナル割合相場ノ安リニ狂ハサルヲ保  
存ヤンカタメ金銀兩貨幣ノ間ニ普通ノ割合ヲ定メント欲ス  
ルノ主意ニ出テシナリ而シテ今如何ナル方術ヲ用井テ愈ヨ  
此ノ目的ヲ達シ得ヘキヤハ今後諸君カ間ニ起ル處ノ議論ノ  
結果ニ由テ遂ニ之ヲ知り得ヘキト確信ス

此ニ至テ本會議眞諸君カ相共ニ協力シ此目的ヲ達ヤシメン  
トヲ謀ルノ真情アルヲ見ルハ實ニ諸君ノ為メニ賀スヘク又  
余輩ニ取テハ欣喜ニ堪エサルヲナリ凡ソ夫レ經濟學上ノ難  
題就中ク其最モ萬國公益ニ関スルモノト虽モ精神一タニ之  
ニ赴クハ實際之ヲ論究スルニ當テ何ノ難キトカ是トアラ

議長セイ氏ノ説ニ依レハ今直チニ合衆國政府カ動議ヤシ如ク

弥ヨ各國ノ際ニ於テ彼ノ兩鑛屬貨幣ノ一ニ確定シタル割合相  
場ヲ立ツルノ方案ヲ議スルニ至ラハ必ス會議闡ハナルノ際各  
種制度ノ間ニ齟齬ヲ生シ來テ悉ク諸議員ノ論說ヲ聞キ得サル  
前既ニ議論ヲ阻遷スルカ如キ憂アルヘキカ故ニ若シ最初凡テ  
斯ル割合ニ關係アルカ如キ事實ヲハ悉ク究定スルヲ務メ随  
テ諸議員齊シク一般貨幣ノ事ニ涉レル事物ヲ學ンテ能ク之ニ  
熟通シ其眞實如何ヲ知ルニ至テハ却テ便宜多カルヘク然リ而  
シテ之ヲ為サンニハ議員ノ諸氏相近寄りテ各其所持ヤル該議  
題ニ關係アル書類及ヒ統計表ノ如キモノヲハ机上ニ置キ互ニ  
交換シテ之ヲ熟覽スルノ便ナカラシムル可ラス如斯クスレハ  
議員ヲシテ各事實ニ通セシメ得ヘキ也ノ聞知録ヲ製出スヘク  
又小ニシテ最モ有益ナルモノ、如キハ即例ノ如ク會議日誌ノ  
憑書トシテ之ヲ出版スルノ便ヲ行ヘシト



カウント、ラスロニー氏、安リニ准テ如スキ割合相場ヲ定立  
ンカタメノ書類ヲ調査シ且ツ事實ヲ論究センヨリモ寧ロ第一  
如スキ割合相場ヲ定立スルハ到底行フヘキコナルヤ否ヲ議定  
セハ是レ真ノ順序ニ近カラサル哉ノ疑問ヲ擧ゲラレタリ  
議長セイ氏之ニ答フルニ「元來貨幣上ニ関スル疑問ハ悉ク実地  
ニ涉レルヲ以テ先ツ能ク事實ニ富ミ其關係ヲ熟知シタル上ニ  
非レハ當ニ之ヲ決シ難キノミナラス之ヲ議スルコトモ亦之カ議  
決ニ近ツクコトモ西ナカラ為シ難キモノナリ固ヨリ各國ノ際ニ  
一定不変ノ割合相場ヲ立ツルノ成否ハ是レ道理上ノ疑問ナリ  
ト虽モ又之ヲ維持シ或ハ之ヲ变革スルコトアルヘキ事實ノ聞知  
ヲ要セリ故ニ双方間ノ議論能ク真正確實ノ事實ニ基ヒテ之ヲ  
發スルハ必ス最初ヨリ書生的ノ空論若クハ想像說ヲ建テ之  
ヲ議スルニ遙カ優ル処アルヘキコトヲ以テセラレタリテアゲイ

氏ハ彼ノ英吉利斯ハ一金本位ノ制度ヲ守レル國ナレハ此國ノ  
代議者カ到来セサル前ハ縱ニ評議ヲ始ルモ其効ナカルヘク  
英吉利斯、白耳義、奧斯太利ノ貨幣制度ヲ擧タル公ケノ書類及ヒ  
亞米利加議院ニ於テ曾テ此事ヲ議シタル事ノ記録才悉ク到来  
スルマデハ暫ク評議ヲ見合ハシテ然ル可シトノ説ヲ吐カレタ  
リ  
以上種々ノ所見アリシト虽モ終ニ議長カ説ニ帰シ依テ第二回  
會議ノ日ヲハ次週ノ金曜日ト定メ同時ニ議長ノ諸氏ヲシテ各  
其國貨幣ノ景況ニ關係アル書類及ヒ統計表ヲ用意シ特ニ代議  
者ヲ派遣セサル諸國ノ貨幣制度ニ涉レル書類オア三ハ可成丈  
ケ之ヲ得ンコトヲ務メ以テ會議ニ附スヘキコトヲ豫告サレタリ  
然ルニブロッツ氏ハ直ニ會議ノ所望ヲ領シ若干ノ書類ヲ提  
テ之ヲ机上ニ登サンコトヲ請ハレタリ而シテ其書類ハ左ノ諸項



ニ關係セリ

第一 中古以降金銀割合相場ノ變動

第二 金貨幣對照比較表

第三 曾テ世界中普通貨幣ト為サンコトヲ試ミラルタル種々

貨幣ノ表圖

議長セイ氏ハドクトル、ブロッチ氏ニ就テ其有益ナル聞見録ヲ用意サレタル真情ヲ謝セラレタリ隨テ會議ノ決ヲ得テ之ヲ第一号憑書トシテ會議日誌中ニ挿入センコトヲ定メタリ  
ロース氏ハ千八百七十三年ヨリ千八百七十八年マテノ龍動市場銀價昇降便圖ヲ將テ之ヲ机上ニ置レタリ(第二憑書)  
リアゲイ氏ハフビル、ヘルツグ氏ノ為メ同氏カ其國國會ノ為メニ不得巴ル処用アリテバアーンニ滯留シ依テ第一回會議ニ臨ンテ事ヲ議スルコト能ハサルノ遺憾ヲ述ラレタリ

グロースベック氏カ發言ニヨリ本會議日誌ハ例ノ如ク佛蘭西語ヲ用ユヘク又會議中ハ凡テ同國語ニ拠ルヘキコトヲ定メタリ  
エッ若シ之ヲ望ム者ナラハ會議中ノ告示及ヒ發言才直キニ口頭若クハ筆下ノ反譯ヲ附与スヘク而シテ其反譯官ハ各國代議者ノ随意ニ之ヲ議堂中ニ誘入スルコトヲ得サシムヘキコトニ決セラレタリ同日午後第三時三十分ヲ以テ散會セリ



第一回會議ニ差出シタル憑書類

第壹号

ドクトル、ブロッチ氏カ差出サレタル貨幣疑問ヲ研究セシカタメ要用ナル算方等ノ

一 龍動府ハ今日世界中金銀ノ大市場ナリ

一 龍動府ハ銀債ノ價ヲ呼フニ「ペニス」ヲ以テシ其憑ル処ハ四十分ノ三十七位銀銀貨本位目形一「オニス」ナリ

一 純粹金銀相場間若クハ同位金銀相場間ノ割合ヲ知ラント欲セハ九百四十三ナル數ヲハ本位銀一「オニス」ヲ買求センカタメ拂フヘキ「ペニス」ノ數ニテ「分」片ハ則チ之ヲ得コシ例ヘハ四十分ノ三十七位銀一「オニス」ノ價ヲハ仮リニ五十五半「ペニス」ト定ムル片ハ則チ九百四十三ヲ五十五半ニテ「分」其商十六、九分九厘一毛ヲ得依テ金ト分ノ相場割合ハ一ト十六、九分



九厘一毛ト知ルヘシ  $\left(\frac{943}{55} = 169\frac{1}{5}\right)$

一 大英國造幣規則ニ依リ十二分ノ十一位金四十磅金銀量ニテ  
ヨリ正金貨千八百六十九ソヴレシ即チ封度ヲ製シ出スヘキ  
割合ナリ然ルニ金銀量一磅ハ十二オンスニ等シキヲ以テ十  
二分ノ十一位金(金貨本位)目形一オンスノ價ハ千八百六十九  
ヲハ四十ニ十二ヲ乘シタル數即チ四百八十ニテカ<sup>除</sup>リ其商三  
ト四百八十分ノ四百二十九封度ニ當ルヲ知ルヘシ  $\left(\frac{1869}{40 \times 12} = 3\frac{1}{4}\right)$   
 $\frac{429}{480}$  即チ之ヲ貨幣直段ニテ云フ片ハ三磅十七志十ト半片  
若クハ九百三十四ト四分ノ一トナリ之ニ依テ又純金一オンス  
ノ價ハ千零九十九ト一分ノ五片ナルヲ知リ得ヘシ  $934\frac{1}{2} \times$   
 $\frac{12}{100} = 1019\frac{1}{2}$  今一方ニ於テ若シ四十分ノ三十七位銀(銀貨本  
位)日形一オンスノ價ヲ $\times$ (反數)トセハ純銀一オンスノ價ハ $\left(\frac{934\frac{1}{2}}{100} \times\right)$   
即チ彼ノ $\times$ 數ニ一ト三十七分ノ三ヲ乘シタルダケノ「ペン」ス

數ニ當ルヘシ之ニ依テ即チ前ニ言フ處ノ純金ト純銀トノ間  
ノ相場割合或ハ同位金銀相場ノ場合ヲ算出シ得ヘシ即チ左  
ノ式例是ナリ

$$\frac{934\frac{1}{2} \times \frac{12}{100}}{\times \times \frac{12}{100}} = \frac{934\frac{1}{2} \times \frac{37}{100}}{\times \times \frac{37}{100}} = \frac{942.995454}{\times}$$

是レ殆ント $\times$ ヲ以テ九百四十三ヲ<sup>除</sup>ルニ等シ故ニ最初ニ斯  
ク云フモノナリ

餘他數憑書類ハ其要少ナキヲ以テ茲ニ畧ス



第二章 惠書

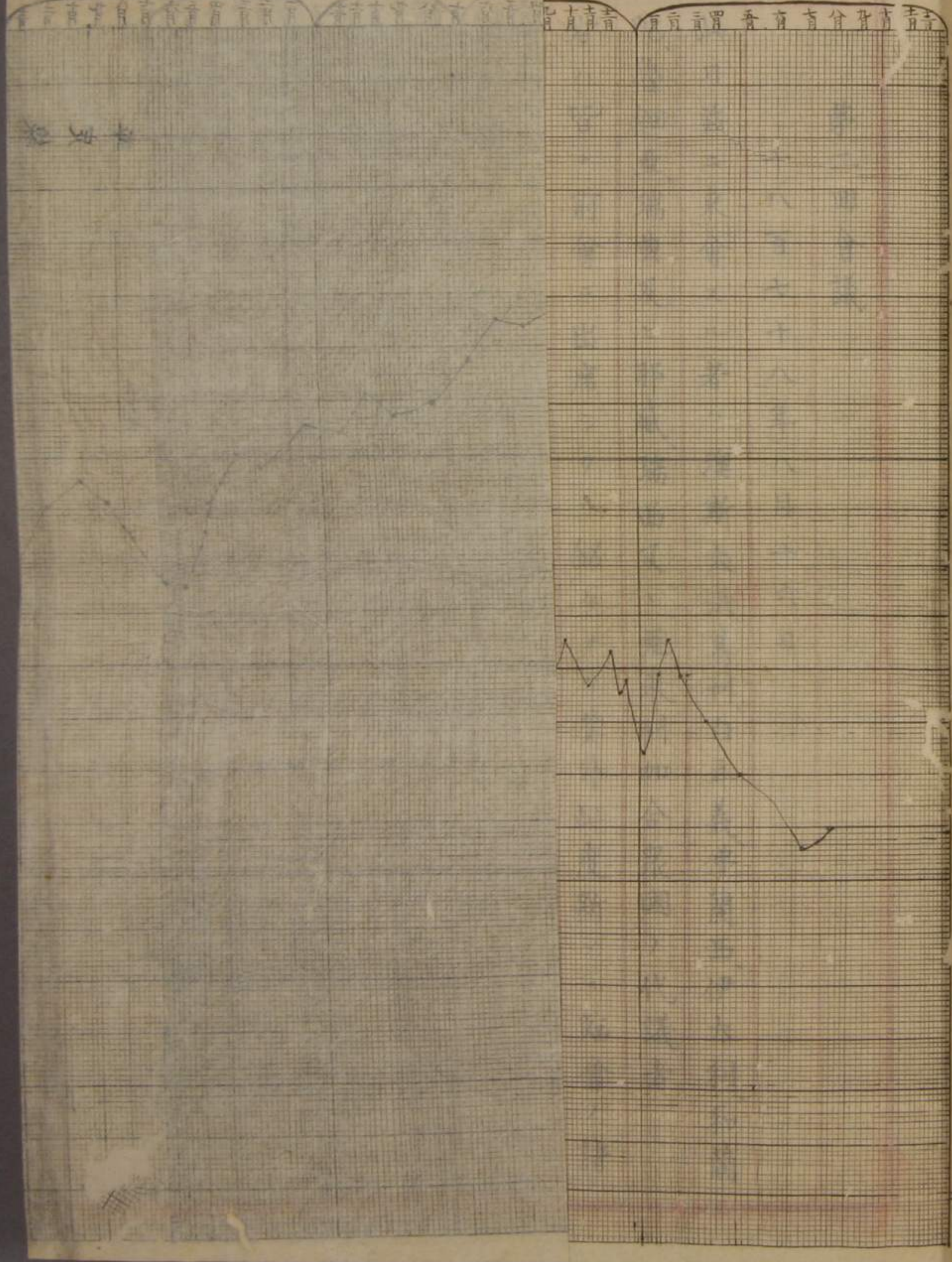
讀博市世類

(相場平均月毎子年七十百)

示名月八線

一千八百七十八年十一月二十五日

一千八百七十八年



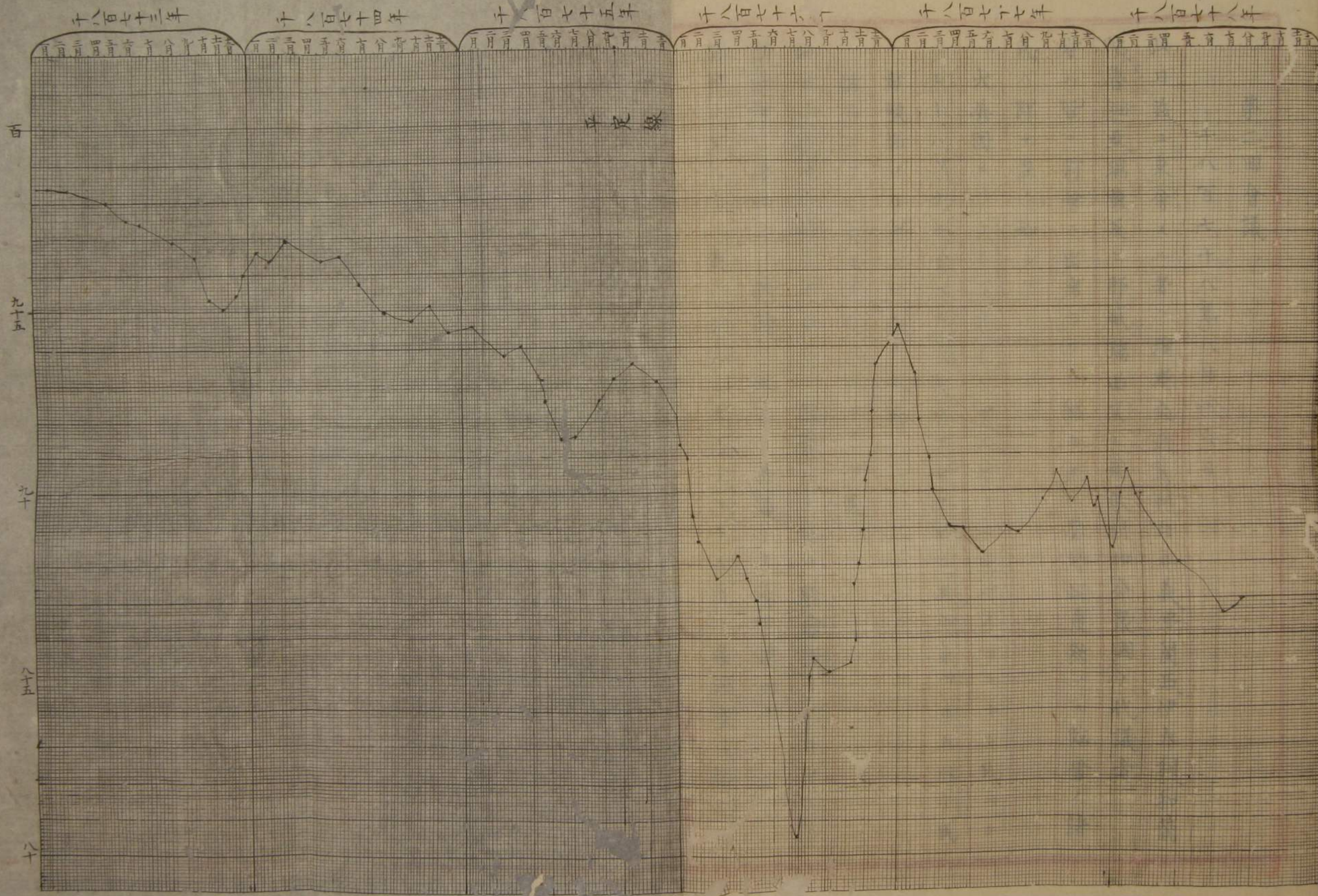
赤  
書



第二号憑書

龍動市場銀價高低表圖 (千八百七十三年ヨリ千八百七十八年ノ毎月平均相場)

經線ノ價ヲ表シ緯線ノ月名ヲ示ス









タリ同氏ハ既ニ亞米利加ノ代議者ノ一人タルヘキヲ議會衆員  
ノ認メ許ルス処ナレハフエントン氏ハ更ニ今後衆員ノ同氏ヲ  
見ルヲ尚ホ餘他ノ亞米利加代議者グロースベック氏ゼネラル、  
ウオーカルノ諸氏及ヒ躬自ラト同様ニアリタキヲ請ハレタ  
リ固ヨリフエントン氏カ此事ヲ述ラレタル敢テ已レ一身ノ面  
目ヲ以テ為サレタルニ非ズ即チ亞米利加合衆國ノ名ヲ負カス  
シテ此議ニ及ハレタルナリ  
此ニ於テ議長セイ氏ハ唯今フエントン氏カ云ハレタル事ヲ公  
ケニ吹聴シ蓋シホルトン氏カ才學能ク同會議ノタメニ補助ス  
ル処多カラントヲ以テ自ラ欣フノ情ヲ陳告サレタリ  
同シクウヰリヤム、グラムトン、コールドン氏モ大英國ヨリ更ニ  
代議者ニ加遣サレタルヲナレハ是レ亦タ議會中ニ其席ヲ得テ  
之ニ就カレタリ

ゴスチン氏曩キニ一千八百七十六年英吉利斯ニ於テ銀價下落  
ノ源因ヲ探損シタル片得タル処ノ諸聞知ヲ上梓シタル一篇及  
ヒ大英國諸地方通用貨幣ノ制度ニ付テ注目スヘキ事實ノ記録  
ヲ將テ之ヲ机上ニ登シタリ衆議皆チ之ヲ容レテ以テ今回會議  
ノ憑書ト為サンコトニ決定シタリ即チ第二回會議第一号憑書是  
ナリ  
又ミイス氏ハ和蘭陀貨幣成規ノ寫文ヲ指出サレタリ之ヲ第二  
回會議ノ第二号憑書トナシタリ  
ラアデー氏モ亦瑞西同盟諸邦ノ貨幣制度ニ涉レル法制上即チ  
國際上ノ公文ヲ悉皆引纏メテ之ヲ會議ニ附シタリ  
フエントン氏ハ種々ノ貨幣疑問ニ關係アル書類ヲ机上ニ登シ  
若シ又議會ノ之ヲ欲スルアハ悉ク合衆國ノ條例苟モ該件ニ  
関スルモノヲ以テ議會ニ差出サンコトヲ請ハレタリ然レ凡テ



此類ノ條例及之カ大畧ハ合衆國造幣局長ドクトル、リンドル  
マン氏カ近年編著サレタル書ニ會有サル、ヲ以テフエント  
ン氏ハ唯此等ニ類ヤル書編ノ目錄ノミヲ差出サレタリ(第二回會  
議第三号憑書是ナリ)  
フロツチ氏ハ抑モ此回瑞典及ニ那威政府ニ於テ愈ヨ當會議ニ  
加入スヘキトニ決定シタル所以ノモノ及ニ斯ル決議ニ至リタ  
ル手續キ如何ヲ述テ曰ク

蓋シ初テ當會議ノ興ラントノ世ニ知ラレタル頃ニ當テハ衆  
皆ナ會議ノ主意ヲ誤見シテ偏ニ金貨ト銀貨ノ間ノ割合相場  
ヲ定メシカ為メナリトノミ思ヒタリ若シ其実果シテ如斯ク  
ンハ我カ瑞典及ニ那威政府ハ云フニ及ハス一立本位ノ貨幣  
制度ヲ遵守スルノ諸國ハ必ス之ニ應セサリシ訳合ナリ然レ  
氏其後更ニ亞米利加合衆國ノ真意ヲ尋子嘗ニ以上些細ナル

事ニ係ハラス寧ロ會議ノ眼目ヲ活大ニシ或ハ萬國一統世界  
普通ノ幣ヲ定立スルヲモアルヘキ様ニ聞受タル上ハ我カ政  
府ハ當會議ニ与ルヘキヤ否ニ付最早ヤ猶豫スルノ要ナキニ  
決シタリ如斯ク探偵糾尋ヲ經テ始テ議論ノ畧域會議ノ所存  
ヲ知り来リシナリ然レモ要スルニ我カ政府ノ當會ニ参与セ  
ンヲ決定シタルハ固ト彼ノ英國政府カ當會議ヲ見ル如何  
ニ其進シテ之ニ参与ヤント欲スルノ念幾許ソヤ又退テ之ヲ  
妨ントスルノ情如何許リナルヤヲ推知シタル后々始テ之ニ  
及ヒタルナリ  
即チ曾テ大英國公使ウイルシ氏ヨリ龍動在苗ノ我カ瑞典及  
ニ那威國ノ公使タルカウント、ポイバル氏ニ贈ラレタル書ニ  
曰ク  
拜呈大英國政府モ遂ニ此回ノ兩立貨幣會議ハ其議ヤント



欲スル必廣ク萬國一統ニ適スヘキ貨幣議題ヲ擧ケ遍ク各  
國貨幣制度ニ就テ稽エ起マヘキヲ定リタル趣キヲ知  
ルニ及ヒ英國政府モ亦其代議者ヲ遣出スヘキヲ決議シ  
タルナリ固ヨリ英國政府ハ右會議ニ於テ衆決シタルト  
虽モ必シモ之ヲ採用スルノ義務ナク又以テ之カタメ束縛  
サルヘキ責ナキノ心得ニテ之ニ及ヒタル者ナリ云々  
千八百七十八年七月一日  
ウヰルシ拜

龍動在留

瑞典及ヒ那威公使カウント、ピツパル公閣下

故ニ此度英國自ラ當議會ニ参与スヘキヲ決シタルトキノ  
有様ハ即チ右書翰ニ見ユルカ如シ亦我カ瑞典及ヒ那威ヨリ  
其代議者ヲ此處ニ遣出スルモ之ト同様ノ心得ニ出ルモノナ  
リ余ハ尚ホ一言セント欲ス此度余輩ハ此處ニ来リタレバ決

シテ當會議ノ決議如何ヲ以テ我カ國政府ヲ約束スヘキ取扱  
ヒヲ為サバルヘシ然レバ唯偏ニ當會議ニ於テ起ラン處ノ問  
題ニ就キ余輩カ所見ヲ吐露シ以テ之ヲ諸君ニ知ラシメン  
ヲ冀望スルナリ

其時フエントン氏ハ既ニ議員ノ面々ヨリ種々ノ詰問ヲ受タレ  
ハ自分ガ合衆國代議者ノ間ニ相謀テ此回ノ會議ニハグロース  
ベツク氏ヲシテ愈ヨ亜米利加合衆國政府カ此度ノ會議ニ付テ  
ノ意見如何ヲ細陳シ且ツ如何様ナル疑問ヲハ當會議ニ附シテ  
評議アラシムヲ希望シ居ルカヲ云ハシメンヲ定タル由ヲ述  
ラレタリ

グロースベツク氏即チ合衆國政府ハ決シテ自ラ他邦ヲ先導シ  
テ之ヲ教唆セントスルノ意ニ、唯萬國一般ノ政術ニ付テ各國ト  
カヲ併セ共ニ事ヲ謀ランヲ望ムルノミナレバ既ニ當會議ノ



發起者タル上ハ又畢竟當會議ヲ起シタル所以ノ原因ヲ迷フヘ  
キノ要アルヲ陳解シ續キ其席ヲ起キ其原因ヲ演シ曰ク  
抑モ當會議ノ力ヲ以テ我カ合衆國政府カ單ニ為シ遂ケント  
欲スル処ハ一銀ヲシテ從來ノ原價ニ復セシメニ合國一  
致ノ上金銀相場間ノ割合ヲ一定サンカ為メナリ以上二者ハ  
即チ當會議ヲ開キタル目的ノ最重ナルモノナリ然レモ余ハ  
我カ同僚諸氏ノ名義ヲ肩カシテ一ニ瑞典那威ノ代議者ノミ  
ナラス餘他之ヲ欲スル処ノ各國ノ代議者ト共ニ成ルヘク世  
界普通ノ貨幣ヲ定立スルニ至ラハ幸モ亦甚矣餘他ノ諸事ニ  
関シテ余輩合衆國代議者ハ自ラ專マニ此処ニ在テ之ヲ決シ  
以テ我カ政府ト約束スルノ權カヲ有ヤサルナリ蓋シ余輩ノ  
唯諸君共ニ經濟上ノ疑問ヲ評議シ若シ幸ニ決定シタル箇條  
アレハ即チ之ヲ我カ政府ニ通知スル丈ケノ任ヲ受タルナリ

而シテ其決定箇條ノ如キハ我カ日本國ニ至テ或ハ之カ議案  
ヲ製シ之ヲ國會ニ附シ始テ我カ國政府ノ之ヲ採用シ以テ自  
ラ約束サル、トアルヘキナリ故ニ要スルニ余輩カ負擔スル  
處ノモノモ諸君カ負擔サル、處モ此シモ其界限ニ於テ異ナ  
ル処ナシ

又今日我カ合衆國會計ノ實情ニ就テハ余輩カ信スル処ニ依  
レハ必ス豫テ定メ置カレタル期日即チ千八百七十九年一月  
一日ニ及ハ、我カ合衆國ヲシテ全ク正貨ノニ通用ノ國トナ  
サシムルノ望アリト確言シ得ヘシ固ヨリ此事ヲ豫定シタル  
法律ハ其實嚴密ナリ必ス其當日ニ至ラハ其實施サレシテ明  
カナリ若シ尚ホ疑惑アルニ於テハ即チ茲ニ我カ大藏卿ヨリノ  
信書アリ余敢テ之ヲ公讀シハ必ス余カ云フ處ヲ証スル  
ニ足ラント信ス夫レ然リ故ニ今若シ此會議ニ依テ幸ニ萬國



公益ノ貨幣ヲ定立スルニ至ルノ好結果アラハ我カ國ニ於テ  
再々斯ル問題ニ付喋々囂々スルノ要尠ナクシテ必ス一千八  
百七十九年一月一日ニハ愈ヨ正貨通用ノ國トナリ得ヘシ故  
ニ之ニ由テ之ヲ推ス所ハ余輩ハ疑モナク此回ノ會議ニ臨テ  
若シ共ニ評議ノ上結約ニ至ラントスルノ折アラハ必ス能ク  
之ヲ為スヘキ丈ケノ権力ヲ我カ政府ヨリ新附サレ得ルニ至  
ルヘシト信ス然レニ豈計ランヤ衆人ノ中或ハ此回ノ會議ヲ  
誤解スル者多キカ故ニ余ハ今此僻見ヲ論破スルノ要アルヲ  
知レリ世人或ハ此回我カ合衆國政府カ本會議ヲ起スノ發意  
者タル所以ハ我カ國中銀鑛ノ巨多ナルト又貨幣ノ疑問ヲ評  
議スルハ他國ニ優リテ自國ノタメ有益ナル廉アルカ為メナ  
リ杯ト云フ者アリ是レ實ニ誤謬ニ過キス抑モ我カ合衆國政  
府ハ金鑛ニヤヨ銀鑛ニヤヨ之ヲ發スルノ業ニ付テ特別自ラ

利益トスル處ナク之ヲ見ル所シモ餘他百般ノ工業耕作ト  
異ナル處ナシ我カ政府真ニ金銀發鑛ノ事業ヲ尊フニ非ヌ又  
實際之カタメ得ル處ナシ現ニ金銀鑛屬ニ租稅ヲ課シタルノ  
ナキハ是レ何ヨリ慥カナル証據ナリ而シテ鑛山ノ如キハ外  
國人ニセヨ内國人ニセヨ誰人ニテモ之ヲ買得タル者ノ私有  
物トヤリ固ヨリ那波多加利發尔呢亞ノ如キ諸洲ニ於テハ此  
等ノ鑛屬ヲ生出スル土地ニ租稅ヲ課シタルヲアレハ是レ亦  
其疆内ノ耕作地及ニ餘他百般ノ不動産物ニ於ルト同一般ニ  
シテ曾テ其出スル處ノ鑛物上ニ些少タリテ租稅ヲ課シタルノ  
例ナシ即チ又我カ合衆國政府ニ於テ銀ヲ以テ再々通用貨幣  
トナスノ舉アリタル以降其自國ニ於テ銀ヲ買求スル丈ケ同  
シク之ヲ龍動市場ニ求ムルノ要アルヲ見タリ且ツ夫レ我カ  
合衆國ハ衆人カ妄リニ評スル如ク非常ニ多分ノ銀ヲ生出ス



ルノ國ナル歟否ナ是レ亦大ナル誤謬ニシテ余再ヒ之ヲ論破  
セント欲ス凡ソ今ヨリ二十五年計リ以降合衆國ニ於テ生出  
マシ所ノ金鑛屬其銀鑛屬ヨリ多キ一四倍ナリキ尤モ此際金  
鑛山益ス衰微シテ銀鑛山愈ヨ盛大ニ至リタルノ実跡アリシ  
ト虽モ又一方ニ於テ我カ合衆國中 richest 稱スヘキコムスト  
ク銀山ノ如キハ既ニ最早ヤ廢鑛ニ屬スルニ垂ントスルノ深  
キニ至ルマテ之ヲ鑿リ盡シタリ然リ而シテ尚ホ其業ヲ維持  
ヤント欲スルニハ此後餘程ノ新好景況ヲ發出スルニ非レバ  
能ハスト云ヘリ加フルニ地質學者及ヒ他ノ實見ニ富ミタル  
諸家カ言ニ依レハ那波多諸銀山ノ鑛線ハ其下ルニ從テ益ス  
其幅ヲ減縮スルノ見込ナリト是レ必ス產銀ノ巨額ヲ減少ス  
ルニ至ルヘキ兆ナリ其故ハ凡ソ昨年ノ如キ合衆國全疆内ニ  
於テ生出セル銀鑛物全量三千九百萬弗ノ内那波多一州ニ於

テ生セシ者二千六百萬弗ニシテ餘他諸方ヨリ生セシ者僅ニ  
千三百萬弗ニ過キサリキ之ニ依テ是ヲ觀レハ若シ今果シテ  
前ニ云ヘル如ク那波多諸鑛山ノ不景氣ヲ来タスニ及ハ之  
カタメ合衆全國ノ銀產ヲ減殺スル果シテ幾許ナルヤ又知ハ  
ヘキナリ  
故ニ合衆國政府カ銀貨再鑄ノ制ヲ採用シタルハ決シテ自己  
營利ノタメニ非ス又之ヲ目シテ合衆國新般ノ制度ナリト稱  
ス可ラス抑モ合衆國政府創起ノ日ヨリニ鑛屬貨幣ヲ立置ク  
ノ制ハ之ヲ行ニ来リシナリ故ニ今此制ヲ採用スルハ決シテ  
新制ヲ設立シタルニ非スシテ久シク熟シ来リタル旧制ニ復  
スルナリ蓋シ一千七百九十二年ヨリ今日ニ至ルマテ銀貨本  
位ノ制ヲ中停シタルハ全ク不注意ニ出タルモノニシテ今日  
其旧ニ復シ兩立本位ノ制ヲ採用セントスルニ當リ一高買一



銀行一製造者其他何會社誰人ニセヨ一モ之カ不当ヲ鳴ラス者アルヲ見ス之ニ依テ全ク敢テ兩立本位ノ制度ハ合衆國ノタメ當ニ法律上ノ仕来リ而巳ナラス久シク人民ノ風習ニ染ミタルモノナリト断言シ得ヘシ

如斯ク兩点ヨリ議論ヲ起シ來テグロースベック氏ハ更ニ亞米利加貨幣成律未歷大畧一篇ヲ擧ラレタリ其文ニ曰ク抑モ亞米利加合衆國ニ於テ初テ造幣規則ヲ發行シタルハ一千七百九十二年ノ一ニテ其時ノ規則ニ依リ兩鑛屬貨幣相場間ノ割合ハ即チ一ト十五ニ定メテレタリ當時ニ在テハ佛蘭西及ニ其貨幣同盟諸國ト雖モ未タ其今日ニ行フ処ノ一ト十五半ノ割合ヲ定立セザリキ然ルニ一千八百三十四年ヨリ一千八百三十七年ノ間合衆國政府ハ以前ノ割合一ト十五ヲ廢止シテ一ト十五九八即チ俗間ニ云フ処一ト十六ニ改正シタ

リ而シテ此割合ハ一千八百七十三年マテ之ヲ保存シタリ如斯ク我カ合衆國貨幣史上ニ於テ度々ノ变革ヲ描出シタリト雖此際始終一弗銀貨ハ此ニモ變更サル、処ナク依然トシテ協和創業時代ノ形体ヲ存シタリ但シ金貨ハ此際改正ナル、処アリキ故ニ合衆國ハ其創業ノ日ヨリ今日ニ至ルマテ一定不変ノ銀貨ヲ保存シタリト云テ可ナリ之ニ依テ又此回一千八百七十年ヲ以テ再ヒ採用センコトニ決セラレタル銀貨ハ決シテ新貨幣ニ非スト云フテ可ナリ即チ右銀貨ハ昔日ノ政術ニ出テ、愛古ノ情ヲ鑄存シタル貨幣ノ再ヒ世ニ出タルモノナリ

然ルニ一千八百七十三年ニ發允サレタル法律ハ其法制官ノ真意ニ出タルヨリハ寧ロ其不注意ナルヨリ條例中銀貨ニ関シテ曾テ云フ処ナキニ依リ實際其赴意ニ違ヒテ全ク本位銀



貨ヲシテ廢弛ニ屬ヤシムルニ至リタルナリ然レモ諸新聞紙  
ト虽モ初ノ之ヲ曉ラス又輿論ノ如キニ其實常ニ正明ナラサ  
ルモノナレバ此時モ亦些シモ之ニ注意スル所ナカリキ而シ  
变革ノ実跡現ルニ及シテ初テ駭然ノ色見エ衆皆ナ日耳曼  
ノ前轍ヲ以テ自ラ警ムルニ至リタリ

一千八百七十八年ニ至リ我カ法制官ハ深ク思慮スル所アリ  
テ合衆國旧來ノ貨幣制度ヲハ其終ニテ恢復ヤントニ氣付キ  
銀ヲシテ金ト同等ナラシメ向後尚ホ二貨幣ノ兩立相保翼セ  
ンコトヲ謀リテ抑モ此回ノ會議ヲ募集センコトヲ發意シタルナ  
リ然リ而シテ今年發兌サレタル法律ハ即チ一般輿論ヲ表示  
セルモノトナス可シ其故ハ該法律發行ノ策按ヲ議スルニ當  
リ國會議員ノ面々ハ皆ナ國民ノ真情ヲ代表シ斯ル大事ヲ評  
議スルニ當リ投票ノ決議多數ノ著シキハ古今未曾有ノ事ナ

リシヲ以テナリ

ダロースベック氏更ニ之ニ附言シテ曰ク

若シ如斯クニ屬鑛貨ノ互ニ相平均兩立スルヲ好ミスルノ意  
ナラハ我カ合衆國政府ハ何カ故ニ近來銀貨鑄製ノ量度ヲ限  
レルヤノ疑問アルヘシ是レ他ナシ唯歐羅諸國貨幣市場ノ景  
況ト彼ノ羅甸貨幣同盟諸邦ノ為ス処トニ付テノ虛策ナリ故  
ニ斯ル制限ハ是レ應變上ヨリ起リタルモノト云ハサル可ラ  
ス然レモ諸君願クハ以下一事ニ注意セラレヨ即チ我カ合衆  
國政府ハ縱ヒ銀貨鑄造上ニ斯ル制限ヲ置クニモヤヨ彼ノ兩  
立貨幣策按ノ第二章ニ於テ必ス合衆國施政官ハ他國政府ト  
相謀リ何トカシテ銀貨ハ金貨ノ如ク向後自由鑄造ノ苦シカ  
ラサル様相成ルヘキ方法ヲ求ムヘキアリノ一事アルコト是ナ  
リ



グロースベック氏以上説解シタル處ノ本會議ノ目的ヲ節約シ  
之ヲ二段ニ分テ曰ク

第一 到底當會議ハ歐羅巴及ヒ亞米利加合衆國ニ於テ銀貨  
鑄造自由ノ廢弛ニ歸センヲ欲スルニ非ス却テ今日現ニ  
之ヲ用キル諸國ノ為メニハ向後尚ホ銀貨鑄造ノ自由ト及  
ヒ該貨幣ヲシテ法律上何處マテモ負債ヲ拂フニ足ルヘキ  
効カトヲ保有セシメ既ニ此制ヲ廢シタル諸國ノ為メニハ  
成ルヘク其旧ニ復セシメンヲ望ム者ナリ

第二 金銀兩貨幣ヲシテ互ニ相存立シ何處マテモ法律上負  
債ヲ拂フニ足ルヘキモノナラシメンニハ第一萬國ノ共議  
ヲ以テ定立サレタル處ノ兩貨幣相場間ノ割合アリテ以テ  
双方ヲシテ平等ナラシムルモノ無カルヘカラス第二斯ル  
割合相場ヲ立タル上ハ双方ニ許スニ等シキ鑄造自由若ク

ハ制限ヲ以テスヘク決シテ兩者間ニ區別ヲ立ツ可ラス

フエントン氏ハ即チ右佛譯ヲ以テ之ヲ會議ニ附シタリ

議長セイ氏ハグロースベック氏ニ就テ氏カ以上述ヘタレタル  
辨解ヲ謝シ隨テ若シ同氏ニシテ尚ホ明細ニ合衆國政府ヲシテ  
愈ヨ銀貨鑄造ノ量額ヲ制限スルニ至ラシメタル處ノ事情如何  
ヲ述フルノ勞ヲ厭フヲナクハ大ニ會議ノタメニ有益アラント  
ヲ陳告サレタリ

ゴスチン氏又グロースベック氏ニ就テ氏カ只今ノ演說中「一千  
八百七十三年ニ於テ合衆國政府ハ其不注意ヨリ銀ヲシテ通用  
貨幣タラシメサルニ至リ之カタメ大ニ全國人民ノ驚駭ヲ來シ  
タル云々」ノ語辞アリキ氏ハ果シテ不注意トナスモノハ如何ア  
ル事柄ヲ指サル、ヤノ疑問ヲ垂レラレタリ  
グロースベック氏之ニ答フルニ抑モ余カ称シテ不注意ト為ス



モノハ元來銀貨ヲシテ依然通貨タルノ効力ヲ具ヘシムヘキヤ  
將タ之ヲ廢弛スヘキヤノ疑問ハ合衆國政府曾テ之ヲ其人民ニ  
質シタルヲナク又當時一ノ新聞紙々モ及ヒ通商商務ノ両局々  
モ之ニ注意シタルヲナキカ故ニ固ヨリ其可否ヲ論シタルヲナ  
カリキ要スルニ當時政府ハ其業ヲ忽セシ人民モ充分ニ此点  
ニ注意セスシテ以テ此舉アルニ及ヒシナリ然ルニ後々ニ至リ  
之ヨリシテ思ヒ掛ナキ結果ヲ起シ來リ此迄人民間ニ久シク馴  
レ來タル通貨ヲシテ一時忽然通貨タルノ効力ナカラシムルニ  
至リタレハ輿論ノ搖動シタル又思フヘキナリ之カタメ當時ノ  
有志輩ハ皆ナ心膽ヲ碎キテ痛論スル処アリ随テ議會即チ人民  
ノ目前ニ於テ忽チ銀貨ヲシテ再ヒ其旧ニ復サシムルニ至リタ  
ルヲ云フナリノ數語ヲ以テセラレタリ  
ギツブス氏之ヲ詰テ曰ク愈ヨ銀貨ヲシテ其旧ニ復サシムルノ

決議ニ達スルノ前之カタメ議會ニ於テ討論セシ処ナカリシヤ  
グロースベツク氏之ニ答テ曰ク固ヨリ余自ラ斯ル異論評議ア  
リシヲ承知ヤリ然レモ余カ親知スル処ニ由レハ其項許多ノ  
代議士カ余ニ就テ曾テ一千八百七十三年ニ當リ斯ル決議ヲ為  
シタルトキ躬自ラ何事ヲ為シ居ルカラ分別了解ヤサリシヲ  
自<sup>ハ</sup>疑セシ者アリト又議長カ問題ニ付テハ確然余カ知ル処抑モ  
合衆國政府ヲシテ銀貨鑄造ノ量額ヲ制限スルニ決マシメタル  
モノハ疑モナク彼ノ羅甸聯盟諸邦ノ拳動ニ依テ然ラサルヲ得  
サルノ場合ニ立入タルカ為メナリ如何ナレハ此迄兩立本位貨  
幣ノ制度ヲ遵守シタル諸國ノ忽チ銀ヲ停ムルノ舉アルニ際シ  
テハ其平均ヲ維持センカタメ不得已合衆國モ自ラ安リニ銀ヲ  
發スルヲナク却テ萬國協議ノ上世界齊シク同時ニ自由鑄貨ノ  
制ヲ復行スルノ時至ルマテ暫ク其鑄造ヲ見合サ、ルヘカラス



即チ此度余輩ヲシテ此所ニ集會セシメタルモノ固ト之ニ因テ  
ナリノ數語ヲ以テセラレタリ  
フエルヘルツグ氏之ヲ難シテ曰ク既ニ一千八百七十三年及  
ノ法律發行前ニヨリ合衆國中銀貨ハ既ニ流通ノ跡ヲ絶チタリ  
而シテ當時現ニ流通セシモノハ金貨ト紙幣トノミナリキ今マ  
グロースベツク氏ガ云ハル、処ノ一千七百九十二年ヨリ一千  
八百七十三年マテノ永歷間其鑄造サレタル銀貨ノ高ハ僅ニ八  
百萬弗ヲ越エサリキ然ルニ彼ノブランド議策ノ起リタル后チ  
僅カニ三四ヶ月ヲ出スシテ又之ト均キ銀貨ノ量額ヲ鑄造シタ  
リ又グロースベツク氏ハ一千八百七十三年ニ於テ彼ノ法律ノ  
發行サレタルハ全ク不<sub>レ</sub>注意ニ依ルモノニシテ夫レカ爲メ人民  
ノ驚愕ヲ起シタリト云ハレタリ然レモ反對ノ証此処ニ在リト  
テ即チ彼ノ法律ノ草案合衆國政府ノタメニ上梓サレタル一篇

ヲ將テ之ヲ机上ニ舉ケテ曰ク之ニ依テ是ヲ觀レハ蓋シ合衆國  
政府カ銀貨廢弛ノ事ヲ決議シタルハ徒ラニ偶然ニ出タルニ非  
ス種々思慮ヲ廻ラシ真意ノ在ル処ニ依テ之ヲ定メタルモノト  
思ハル即チ此文面ニ於テ現ニ向後金貨ノミヲ以テ本位貨幣ト  
爲スヘク銀貨ハ断然其本位貨幣タルヲ禁止スヘキヲ明言  
セシニ非スヤ(第二回會議第四憑書ヲ見ルベシ)故ニ余ハ該法律  
ハ強ク不<sub>レ</sub>注意ヨリ出タルモノナルヲ信シ難ク又後チニ至テ  
驚愕ヲ惹キ起シタリノ一事ニ付テハ益ス信シ難キヲ免レス又  
グロースベツク氏ハ彼ノ銀貨恢復ノ事タル真ニ合衆國全民共  
同ノ意ヲ以テ之ニ及ヒタリト主張サレレモ余曾テ合衆國ニ  
於テ實際全民立法ノ制度アルヲ知ラス蓋シ又曾テ一千八百  
十三年ニ於テ彼ノ法律ヲ發行シタルキ初メ人民ノ之ニ與リ知  
ル処ナキノ慮ヲ以テ右法律ヲ左右スルノ理ナシルヲ立法ノ歸



スル処皆ナ如此キ者ナリ  
以上フエルヘルゾツク氏カ説ヲ畧言スレバ「彼ノ法律ノ為メ人  
心ヲ驚カシメタリノ一事ハ実ニ信シ難キヲニシテ要スルニ当  
時合衆國ノ景況ニ就テ之ヲ論スルハ其初メ斯ル法律ノ未タ  
發行サレサル前ト既ニ發行サレタル後ト貨幣流通ノ実情上  
ニ関シテ毫モ变革スル処ナク若シ之レアルニセヨ実ニ些少ニ  
過キサリシナリ即チ彼ノ法律ノ指揮スル処ハ向後決シテ銀貨  
ヲ通用貨視スヘカラスノ一事ナリシモ其前既ニ實際銀貨ハ其  
跡ヲ流通中ニ絶チタルナリ試ニ見ヨ彼ノ加利芬、ル、呢、亞、金、鑛、山  
ノ發見サレタル后チハ銀貨次第ニ金貨ノタメニ歴倒サレ其後  
戰爭起ルニ臨テ不得已彼ノ紙幣ヲ發行スルニ及ヒタルニ非ス  
ヤ故ニ一千八百七十三年ノ法律ハ頻リニグロースベツク氏カ  
論述サル、カ如ク通用貨幣ノ景況上若クハ人民ノ習慣上特別

ノ变革ヲ生シタルノ理ナシト云フニ當レリ又羅甸貨幣同盟諸  
邦ノ動作ニ依テ合衆國政府カ銀貨鑄造量額ヲ制定セサル可ラ  
サルノ勢ニ及ヒタル云々ニ付テハ同シクフエルヘルゾツク氏  
カ云フ処ニ依レハ「合衆國ニ於テ右制限規則ヲ發行シタルハ即  
チ一千八百七十三年四月ノ事ニテ當時既ニ銀貨下落ノ折ナリ  
キ然ルニ彼ノ羅甸貨幣同盟諸邦ニ於テ彼ノ五「フラン」ク銀貨鑄  
造ノ事ヲ廢止シタルハ愈ヨ其歲暮ニ至テ始テ其舉アリシナリ  
故ニ同氏ノ説ニ據レハ如斯ク時日上ノ齟齬アルニヨリ能クオ  
ノレトブル、グロースベツク氏カ論ヲ容ル、能ハスト  
其時ゼネラル、ウオルカー氏ハ當時合衆國人民ニ於テ啻ニ右變  
革ノ議ニ与カルノ機ヲ得サリシノミナラス殊ニ常ニ理財及ニ  
貨幣ノ議旨ニ關係アル諸士スラ尚ホ此事ヲ知ラス同氏自ラ其  
頃頻リニ貨幣論ヲ講シ居テ側ラ經濟會議長ノ位置ニ居ナカラ



其政府ニ於テ何事ヲ為シ居ルカヲ知ラザリキ故ニ恐クハ同胞ノ諸士人ト雖モ其多数ハ之ヲ存知セザリシナランコトヲ陳述シタリ  
ゴスチン氏ハ彼ノ法律發行ノ日ニ於テ既ニ銀貨ハ下落ノ景氣ヲ催フシ居タル哉否ヲ純明スルハ最モ有要ナルヘキヲ癸言シタリ  
ワーン氏亦一千八百七十三年五月瑞典及ニ那威國ニ於テ一立金貨ノ制度ヲ採用シタルハ即チ銀貨下落ニ依テ之ニ及ヒタルコトヲ陳述シタリ  
ブロッチ氏曰ク一千八百七十二年十一月ニ於テ既ニ銀貨下落ノ景情アリキ即チ金銀相場高低表ニ依レハ當時銀ト金ノ割合ハ一ト十五、八五ナリキ然ルニ一千八百七十三年ニ至リテ銀貨ノ下落倍ス著シク其一ケ年間金銀ノ平均割合ハ一ト十五、九一

ニシテ法律上ニ於テハ一ト十六ナリキ然レモ尚ホ合衆國ニ取テハ銀貨其平定相場ヲ下ラスト稱スヘキナリ固ヨリ彼ノ羅甸貨幣同盟諸邦ニ在テハ其二鑛屬貨幣ノ割合ハ一ト十五半ナルカ故ニ既ニ其平定相場ヲ下リタルモノト云フヘシ  
クロースベツク氏フエルハルガツグ氏カ論ニ對テ曰ク成ル程ト一千八百三十四年ニ至ルマテハ實ニ銀貨ノ鑄造額ハ甚ク些少ナリキ然レモ右ハ全ク「メ」キシコ弗ト西班牙弗トノ恰モ彼ノ五カランク貨同様ニ流通セシカ故ナリ其上半弗及ニ四分一弗貨ノ彼ノ一弗銀貨ト其本位ヲ同フスルモノアリタルカ故ニ大ニ又之カ為メ弗銀ノ鑄造ヲ減少シタルナリ而シテ一千八百一十三年ニ至ルマテ亜米利加銀弗ハ正ニ平定相場ヲ占メタリ故ニ當時米國ノ諸論者ハ蓋シ銀貨ヲシテ通用貨タルノ効力ナカフシムルニ至リタルハ畢竟金銀間相場ノ平等ナラサルニ出タル



ニ非ス他ニ又銀貨ヲ得ンヨリハ寧ロ金貨ヲ採ルヘキノ源由アレハナリト称シタリ

フエルヘルゾツグ氏答エ曰ク或ハ若シ一千八百七十三年ニ於テ些少ノ銀貨尚ホ其平定相場ヲ保存シテ流通間ニ残留ヤシモノアリシヤモ計リ難シト虫臣所謂ル其平定相場ナルモノハ是ニ当時ノ紙幣ニ對スルノ云ニシテ決シテ銀貨性來スル相場ニ當リタルニ非ス故ニ之ヲ以テ金貨ニ照準スルハ必ス其平常相場ヲ占メ居タルヲ見サリシナラン

議長ヤイ氏ハ頻リニ同氏カ曾テ當會議ノ初癸ニ於テ拳ケラレタル所ノ疑問ヲ主張シテ何カ故ニ合衆國政府ハ其兩立貨幣ノ制度ヲ復行スルハ當リ銀貨ニ於ル尚ホ金貨ニ於ケル如ク自由ニ鑄造サル、一ヲ許サ、リシヤ今ダロースベツク氏カ説ニ依レハ畢竟其鑄造ヲ制限シタルハ彼ノ羅甸同盟諸邦カ舉動ニ

依ルモノナリト云ハル、ナリ然レモ此説深ク信スルヲ得ス如何トナレハ抑モ銀貨鑄造量額ヲ制限シタルハ最初衆議ヲ以テ決定シタル法律ヲ改正シテ初テ之ニ及ビタルモノナレハ竊ニ惟フニ此改正ノ拳アル最初ノ法律ニ於テ衆意ヲ喚集シ然ル后チ竊ニ改正ヲ企テ以テ暗ニ決議ヲ取ルノ狡猾手段ト思ハル蓋シ合衆國議會ニ於テ斯ル制限ヲ設立ヤン、一ヲ決議スルニ當リ彼ノ羅甸同盟諸邦ノ舉動カ苟モ之ニ與リ為セル處アリシニセヨ其實甚タ些少ナリキト云ハサル可ラス如何トナレハ右評議ノ際曾テ金銀貨幣相場間一ト十五半ノ割合ヲ取リ以テ亞米利加ノ制度ヲシテ彼ノ羅甸同盟諸邦ノ制度ノ如クナラシムハシノ論ヲ吐キタルモノアリシヲ見サリキ

フエルヘルゾツグ氏議長ノ意見ヲ贊成シ更ニ彼ノ法律設立ノ議案ニハ初メ銀貨ノ自由鑄造ヲ認メアリシヲ確言シタリ



グロースバツク氏答テ曰ク抑モ初テ議案ヲ建ル者ハ凡テ後ニ至リ評議ノ模様ニ依テ兩議院ノ衆負カ以テ正当トナスヘイ所ノ变革改正ハ果シテ何レノ処ニ在ルヘキヤ悉ク之ヲ豫知スル能ハス尤モ當時米國全民ノ共意ハ自由鑄造ニ在リキ故ニ初メノ程ハ輿論ノ在ル処ニ從テ如斯ク決定セント欲シタルナレド熟ラ物情ヲ稽フルニ若シ其低ニテ差措カハ各州或ハ一巴ノ見込ヲ以テ難害ヲ惹キ起サンカモ計リ難ク故ニ臨時態ト斯ル制限ヲ設ケタル者ナリ

ホルトン氏亦議長ノ難問ニ答テ曰ク固ヨリ當時合衆國政府ヨリ撰任シタル銀貨事情ヲ穿鑿センカタメノ委負ハ多分皆ナ彼ノ羅甸同盟諸邦間ニ行ハル、処ノ金銀相場割合ヲ採用センコトヲ政府ニ勸メタリ議長願クハ此点ニ注意アリタシ而シテ一千八百七十六年ノ夏ニ至リテブランド氏が議案ヲ企ルコトアリテ

其時ヨリ愈ヨ今度ノ會議ヲ發起メンコトニ定リタル法律議案ノ起ルマテノ間タ凡テ此事ニ関シタル議問ハ表裏反覆一々之ヲ論究シテ毫モ遺ス処ナカリキ蓋シ此際始終彼ノ羅甸貨幣同盟ノ事常ニ議論ノ憑ル処トナリテ須臾モ之ヲ離レタルコトナカリキ

以上二氏ノ答辨アリタル后テ誰アツテ口ヲ開カント欲スル者ナカリキ  
議長セイ氏稍々アリテ問テ曰ク合衆國代議者カ當會議ニ附ヤラレタル疑問ニツアリ今直チニ右問題ノ評議ニ取掛ルヘキヤ又ハ之ヲ次會ニ延ハスヘキヤ會議ノ諸君何レヲ宜シトサル、乎アユルヘルゾツク氏答テ曰ク唯今ヨリ直チニ之ニ取掛ル、シ而シテ議負ノ面々ハ其名氏字頭ノ假名順序ニ依リ次第ニ其意見ヲ吐露スヘキ様ニ致シテ可ナラン



議長セイ氏之ヲ排ケテ曰ク斯ク致サハ議員ノ諸名ヲシテ強クテ各々一個ノ主義ヲ論出スベキ様餘儀ナクスルニ至ルヘシ却テ其或ハ米國代議者ガ意見ヲ賛成スルニモセヨ又ハ之ヲ辨駁スルニモセヨ誰人ニモモ其望ム処ニ任ヤ其欲スルキニ席ヲ起チテ議論ヲ述フルノ方寧ロ適宜ナルヘシ

衆議皆ナ此方ヲ可トセリ  
其時議長ハ書記官ニ向テ誰ニテモ曩キニ亞米利加ノ代議者カ會議ニ附ヤラレタル問題箇條ヲ朗讀サレントテ請ヒ書記官即チ之レニ應シタリ

ピルメツ氏右ノ如ク讀上ケラレタル箇條即チ此度會議ニ於テ評議ヤント欲スル処ノ諸箇條ノ真意上ニ涉リ述フル処アラン  
トテ豫言シ續テ其意ヲ述テ曰ク固ヨリ此等ノ諸箇條ハ一々分離シテ之ヲ讀ムル決シテ其意ヲ得難キニ非ス然レモ此等ノ真

意ハ畢竟之ヲ纏綜理合シテ初テ之ヲ得ヘキナリ譬エハ原来銀ナルモノハ貨幣タルヘキノ物質ニ適シタルモノナレハ諸國齊シク其貨幣タルトテ禁スヘキ理ナシ又一方ニ於テ仮リニ銀ヲ以テ貨幣本位ノ制度ヲ遵守スルノ一國ヲ取リテ之カタメ政府ヨリ其銀貨鑄造上ニ自由ヲ与フヘキ哉將タ之ヲ制限スヘキ哉ノ問題ヲ議スルニ當テハ事實ニ容易ニシテ衆皆ナ寧ロ制限ヲ置カンヨリ自由ヲ与フヘキトテ賛成スヘシ然レモ此回當會議ニ附ヤラレタル問題ハ斯ル分離孤立ノ主義ニ非スシテ互ニ相抱合關涉スル所アリテ現ニ一事ノ豫認サレタルモノアリ即チ今銀ニシテ其アラントテ欲スル処ノモノハ既ニ之ヲ金ニ許シタルト是ナリ故ニ當會議ニ附ヤラレタル議案ハ金ニ金ノミテラス銀モ亦共ニ通貨トシテ之ヲ用ユヘク又同シク共ニ鑄造目主ヲ許スヘシト云フニ當レリ是レ即チ完然ナル兩立貨幣制度



ノ然ル処ニシテ其欲スル所ハ既ニ其金ニ待ツカ如ク銀ヲシテ  
同シク法律上以テ負債ヲ拂フニ足ルヘキ効カラ有セシメンカ  
為メナリ要スルニ当議案ノ企ツル処ハ萬國一統兩立貨幣ノ制  
度ヲ採用シテ可ナルヘシノ意義ニシテ即チ此回ノ論議ハ此点  
ニ基ヒテ起ルヘキモノナリ然ルニ余カ自ラ為メニ其代議者ト  
シテ来リテ當會ニ臨ムノ我カ國政府ハ其意斯ル議案ヲ拒ムニ  
外ナラス蓋シ兩立貨幣ノ制度ハ大ニ貨幣上ノ狂動ヲ來タスノ  
憂アリ今若シ現ニ兩立貨幣ノ制度ヲ遵守セル彼ノ羅甸同盟諸  
邦ヲシテ誤テ其銀貨鑄造上ニ課スル処ノ制限ヲ解カシムル  
アレハ忽チ投機家ヲシテ此際ニ乘シ悉ク金貨ヲ市場ヨリ取去  
リ之カ代リニ銀貨ヲ出シテ以テ莫大ノ利ヲ射サシムルノ恐レ  
アリ  
カウント、ラスコニー氏曰ク余カ思フ処ニ依レハ曾テ當會議ニ

於テ豫シメ金銀貨幣間ニ一定ノ割合相場ヲ立ルヲ到底為シ  
難キモノナル乎否ヲ決スルハ必シモ難キヲニ非スト信セラル  
其上若シ衆議ノ決スル処ニ從ヒ到底立テ難カラスト定マル片  
ハ則チ如何ナル方術ヲ以テ之ヲ定ムヘキヤノ議論ニ運ビ得ベ  
シ又今一方ニ於テ元來兩立貨幣ノ制度ナルモノハ其實曾テ世  
々右制度ヲ遵守シ來タル諸國ノ實ニ誤謬ヨリシテ之ニ赴キタ  
リト云フニ足ルヘキ程ノ損失ヲ有スルモノナルカ蓋シ世界ハ  
互ニ相隔離シタル二部ニ分レ人間ハ一般ニ攘他獨守ノ主義ヲ  
尊信シテ互ニ相知ラスシテ可ナリト為ス乎余輩伊太利政府ノ  
代議者ハ固ヨリ之ヲ欲セサルナリ  
プロツチ氏ハ断然同氏カ知ル処ニ依レハ凡テ兩立貨幣制度ナ  
ルモノハ其弊害多キヲ辨明シテ曰ク「其實天下曾テ兩立貨幣  
ナルモノナシ蓋シ一貨幣ハ常ニ他ノ貨幣ヲ壓倒スルノ例ニテ

蔵省



流通中其壓倒サレタルモノハ常ニ其壓倒シタル者ノ隨從者タルニ過キス即チ弱貨却テ常ニ強貨ヲ排攘スルハ萬古不変ノ通義ニシテ其實常ニ兩者双立スルヲナク之ヲ概言スレハ一時一立他時他立ノ情態ヲ現出スルモノナリ蓋シ亞米利加合衆國ノタメニハ萬國均シク同時ニ兩様ノ貨幣ヲ採用シテ双方共ニ同シク法律上ノ負債ヲ拂フニ足ルヘキ効力アラシムルニ於テハ其利益實ニ巨大ナル所以ノモノアリ即チ合衆國カ偏ニ忌ム所ノモノハ若シ尚ホ紙幣ノ制御ヲ仰クノ諸州ニ於テ金貨一立ノ法ヲ立テナカラ現ニ正貨取引ニ限ルヘキノ法ヲ行フニ當テハ一時二様ノ窮厄ヲ來タシ其一ハ非常ニ金價ヲシテ騰貴セシメ其二ハ必ス百般物品ノ價ヲ下落セシムヘキニ在ルナリ固ヨリ合衆國政府ハ自國ノ能ク產物ニ富ミナカラ其負債ノ多キヲ知ルカ故ニ隨テ金貨一立ノ制度ハ自國々是ニ有害ナルヲ知ルナ

リ然レモ合衆國政府ハ其一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラス今一方ニ於テ果シテ彼ノ政府カ望メル如ク兩立貨幣ノ制度ヲ立テナカレ又其鑄造自由ヲ許スニ至ラハ到ル處百般物價ノ非常ニ騰貴シテ生活上ノ必要物ハ必ス莫大ノ價ヲ占メ其功驗ハ製造者若クハ工場主ノ上ニ及ハスシテ却テ一般ノ費用者勞夫小作者等凡テ貧民ノ上ニ及フヘク之ヨリ生來スヘキ所ノ難厄ハ實ニ前ニ述フル如キノ比ニ非ルヘシ曩キニ加利癸尔呢亞及ニ豪洲ニ於テ金山ノ發見サル、ニ當リ金價大ニ下落シ加フルニ印度支那及ニ東洋諸國ヨリ歐羅巴各國皆ナ争テ生品ヲ買入シ之カ代ヲ拂渡スヘキノ要アリシニヨリ之カ為メ銀價一時ニ騰貴スルヲ大ナリキ然レモ其實僅カニ其平定相場ヲ踰ユルヲ百分ノ二ニ過キスシテ今日ニ至テハ却テ銀山ノ景氣好キト日耳曼ヨリ多分ノ銀ヲ賣出シタルトニヨリ益ス以前ノ騰貴高ニ倍シタル



下落ヲ永久銀價上ニ来タシタリ蓋シ其以前ノ騰貴ノ如キハ是レ唯々一時ノ偶成ニシテ數百年前ヨリ銀價ノ下落ハ行續キタルニテ今尚ホ其墮系ヲ踏ムモノナリ即チ第一回會議ノ憑書第一号ニ就テ之ヲ見ルハ僅カニ數ヶ月ノ停止若クハ寧ロ偶然ノ騰貴アリシト虽モ其益ス常ニ下向スルヲ知ルヘシ是レ畢竟彼ノ貨幣相場ノ歸向スル線路ニシテ又容易ニ之ヲ離レ難キナリ又若シ強クテ國際上ノ協議等ヲ以テ金銀貨幣ノ間ニ一定ノ割合相場ヲ立ルニモヤヨ固ト是レ人造ノ割合相場ナルカ故ニ必ス常ニ其實價上ニ於テ揺動ヲ生出センヲ疑ヒナキナリ而シテ如斯キ揺動ヲ流通波間ニ生スルハ畢竟海外貿易ノ妨害トナルヘキヲ明カナリ余カ見ル處ニ依レハ此点ニ付テハ金貨一立ノ制度大ニ優ル處アリ元來金ナルモノハ之ヲ銀ニ比スレハ甚タ携輸シ易ク其重量比較ノ如キハ目今一ト十八ノ割合ニシ

テ其積量ニ至テハ一ト三十ナリ故ニ歐羅巴ニ於ル又今日余輩開明社會ノ有様ニ於ル其運送輕便ノ点ニ於テハ平日生活ノ用ニ取テモ亦内外貿易ノ便ニ取テモ其金ノ銀ニ優ル甚タ大ナリト云ハサル可ラス今金貨ナラハ人々其通常拂ハント欲スル丈ケノ高ハ容易ニ之ヲ身邊ニ携エ得テ到ル處曾テ不自由ヲ知ラサル可シト虽モ若シ悉ク銀貨ノミニ限ルトヤハ婦人ノ如キハ某店ニ至リ某ノ衣服ヲ買求センカタメ必ス從者ヲ率井テ之ニ嵩高ナル銀貨ヲ運ハシメサル可ラス如斯クスレハ僅カニ一衣服ヲ買ハシカタメ空シク全日ヲ費サ、ルヲ得サルヲアルハシ故ニ開明進步ノ社會ニ在テ輕便活達ナル用務ヲナスモノハ獨リ金貨アルノミナリ之ニ反シ銀ハ常ニ久シク姑息因循國ノ通貨トナツテ徒ラニ世ニ殘ルノミナリ且ツ夫レ仮リニ非常ノ辛苦ヲ經テ以テ漸ク歐羅巴全國中一統ノ兩立貨幣制度ヲ起ス



モ特ニ小國ニ於テハ忽ケ金ヲシテ其跡ヲ埋マシムルニ至ルハ  
シ若シ苟モ雙方ノ間ニ相場ノ相狂フコトアレハ縦ニ是レ一時ニ  
止ルニモセヨ必ス其平常相場ヲ踰タルノ貨幣ハ其跡ヲ流通中  
ニ絶ツニ至ラント明カナリ

ブロツチ氏又曰ク「今釀テ之論スルハ凡ソ世界ニ於テ尚ホ紙  
幣ノタメニ制御サル、諸國ノ其數多キハ是レ偏ニ正貨幣ノ欠  
乏ニ出タルト称ス可ラス却テ其責ハ国内銀行制度ノ其宜シキ  
ヲ得サルト又理財上政術ノ善美ヲ尽サ、ルトニ在リ蓋シ合衆  
國政府ノ信スル處ニ依レハ今若シ魯細亞奧斯太利及ヒ伊太利  
ニ於テ金貨一定ノ制度ヲ採用シ凡テ正金拂渡シノ道ヲ踏ムニ  
至ラハ之カタメ必ス多量ノ金ヲ要スルコトアルヘキカ故ニ隨テ  
必ス金價非常ノ騰貴ヲ來タスヘキモノトナスニ似タリ然レモ  
余カ所見ニ從エハ決シテ斯ル例ヲ發出ヤス却テ存外小量ノ金

ニテ事足ルヘシ凡ソ實驗ノアル處一國若シ正貨若クハ正貨ヲ  
以テ引換エヘキ所ノ手形ヲ以テ悉ク其紙幣ヲ引換エント欲ス  
ルハ實際活動ニ備フヘキノ正貨若クハ手形ハ其量僅カニ金  
價ノ紙幣相場ニ踰ル分文ケヲ以テ足ルヘキナリ之ヲ譯言スレ  
ハ譬エハ金貨ノ相場其紙幣相場ヲ踰ルコト紙幣代價ノ一割トセ  
ハ即ケ活動ニ備フヘキ金貨ノ量ハ紙幣全量額ノ一割ニテ事足  
レトス蓋シ此点ニ就テ合衆國政府カ思考スル處ノモノハ徒  
テニ杜撰ノミ且ツ夫レ余カ知ル處ニ依レハ今合衆國政府カ頻  
リニ渴望スル處ノ兩立貨幣ノ制度ハ尚ホ別ニ一種ノ損失ヲ有  
セリ即チ現ニ彼ノ政府カ云フ如ク歐羅巴各國齊シク右制度ヲ  
採用スルニ至ルニモセヨ尚ホ其檻内ニ入ラサルノ國多シ即チ  
支那及ヒ印度ノ如キハ依然トシテ其舊ニ依リ一立銀貨ノ制ヲ  
固守スヘシ如斯クスレハ必ス彼ノ諸國ト歐羅巴諸國トノ間ニ



行ハル、必ノ貿易上ノ關係ハ時々事情不得已必ヨリ種々ノ變動ヲ起シ随テ必ス彼ノ二種鑛屬ノ相場ヲ狂ハシメシテ必セリ譬エハ歐羅巴諸國ト東洋諸國トノ通商出入ノ比較表面ニ於テ若シ東洋諸國ノタメニ正貨ヲ以テ比較ノ差ヲ拂ハサルヲ得ナルノ場合ニ立至ラハ必ス一時歐羅巴諸國ヨリ其レ丈ケノ銀貨ヲ輸出セサルヲ得サルヘシ之カタメ忽チ歐羅巴ノ市場ニ於テ銀貨ノ騰貴ヲ来タスヘク以テ其拂底ナルヨリ到底買賣ノ道ヲ塞碍スヘシ若シ又之ニ反シ比較表面上勝ヲ歐羅巴ニ讓ルハ則チ巨量ノ銀貨歐羅巴ノ市場ニ溢レ来テ大ニ其相場ヲ下落ヤシメ之カタメ金貨ノ價ヲ騰貴ヤシムルニ至ルヘシ如此クシテ雙方ノ通商上絶エス困厄ヲ来タスヘク然リ而シテ其困厄ヨリ社會ノ康福上ニ關係ヲ生スル今日ノ如キ其最モ多キ古来未タ曾テ有ラサルモノト思ハル其故ハ外國交商ノ繁シキ凡テ今

日ノ如キ古来其類ナカリシナリ最モ東洋通商就中ク彼ノ印度ノ如キハ其人口ノ繁多ナル常ニ百萬ヲ以テ其數ヲ量ルカ如キ大國トノ通商ニ於テ斯ル危險アルニ於テハ縦ニ國內ニ於テ種々ノ手段ヲ運ラシ千辛萬苦交易兩替ノ平均ヲ謀ルモ奈何ンヤン僅カニ一ヶ年ヲ出テサルノ間ニ一舉シテ以テ巨萬ノ貨幣ヲ奪去シ若シクハ投出スルノ憂アルヲ免カレス以上述フルカ如キ種々ノ理由アルニ依リ余ハ偏ニ亞米利加合衆國政府ヨリ發議サレタル案策ヲ拒ムナリ余ハ今議論ノ局ヲ結フニ當リ敢テ一言セント欲スル処ハ他ナシ若シ萬一那威政府ニ於テ容易ク一時ニ一立金貨ノ制ヲ行フヲ得ルノ機會アリトヤハ其出ル処ハ必ス強ヒテ外國貨幣ヲ以テ通用貨幣トナスノ類アルト又正貨ヲ要スルノ量額尠ナルトニアルヘキト必セリ  
バアラレズ氏曰クブロッヂ氏及ヒ餘他英語ヲ了解シ得ル処ノ



人位ハ即チダグロースベツク氏カ英語ヲ以テ辨述サレタル演説  
ヲ了解シ得ラレタルヘシト虽モ議負中或ハ之ヲ為シ得サル者  
アリ故ニ前回會議ニ於テ取定メタル通りダグロースベツク氏カ  
演説ノ翻譯ヲ得テ偏子ク衆員ニ往キ渡ルマデハ暫ク議論ヲ中  
止シテ可ナラン然ラサレハ之ヲ解シタル者ト之ヲ解シ得サル  
者ノ間ニ自ラ答辨シ得ルト得サルノ區別ヲ生シテ事甚タ不都  
合ナルヘシ

議長セイ氏此議ヲ賛成シテ曰ク「尤モ合衆國政府ヨリ當議會ニ  
附ヤラレタル議案ヲ悉ク評議シ了ラン」ハ到底此回ノ會議ノ  
ミヲ以テ果タシ難ク必ス之ヲ次會ニ附セサル可ラスト虽モ今  
深ク之ヲ論究セサル前ニ當リ議員ノ面々或ハ今回ノ會議ニ於  
テ之カ大体ノ議論ヲ吐露スルモ亦以テ無益トナス可ラスト然レ  
且若シ議員中之ヲ為スノ不便アルヲ知ルニ於テハ余ハ何時ニ

テモ當會議ヲ閉ルヲ拒マサルベシ

ド、ソワルナル氏ハ凡テ此度ノ會議ニ於テ云ハント欲スル処ノ  
者ハ皆ナ自身ノ名ヲ以テスヘク又悉ク自身ノ意見ニ出ルモノ  
ナルカ故ニ決シテ之ヲ以テ自國政府ヲ束縛セサルヘキヲ明  
陳シ且ツ魯西亞政府ハ愈ヨ正債仕拂ヒノ國勢ヲ恢復スルニ至  
ルマテハ決シテ當會議決議ノ如何ニヨリテ其政術ヲ左右ス  
ルノ意ナシト虽モ其一ハ亞米利加合衆國政府ノ懇望ニ應ヤン  
カタメ其二ハ斯ル會議ニ際シ四方ヨリ知識聞見ノ相輻集スル  
者多カラントヲ慮カリ之カタメ得ル処アラントヲ欲シテ以テ  
其代議者ヲ派出スルニ及ビタルヲ演述シ続テ二箇ノ事實ヲ  
擧テ凡テ貨幣ノ事タル其帰スル処ハ皆ナ自然勢力ノ向フ処ニ  
シテ今之ニ反激シ或ハ法律ノ力ヲ用井或ハ國際盟約ノ力ヲ反  
リテ事ヲ為サント謀ルノ難キヲ示シテ曰ク抑モ魯西亞ニ於



テ曾テ未タ紙幣ノ正貨ヲ排拆スルニ至ラサル前ニ當リ其項ノ  
通貨本位ハ一ニ銀貨ルウブル（一ルウブル）ハ我カハ拾錢位ニ當  
ルアルノミナリシモ實ニ尚ホ金銀貨幣ノ流通多キヲ見タリ而  
シテ此ガ二種貨幣ハ其官省ノタメニ齊シク受納サル、処ヨリ  
同シク私民間ノ負債ヲ拂フニ足ルヘキノ効カヲ有シタリ然レ  
其金貨ノ相場其銀貨ニ踰エルヲ譬エハ五ルウブル（五ルウブル）金貨幣ハ  
銀ニテ五ルウブル十五（十五ルウブル）コバツク（一百コバツク）ヲ以テ一ルウブ  
ルトナスニ當ルノ甚シキニ及ヒタリ而シテ斯ル差異アルハ又  
政府ノ認ムル処ナリキ然レ其此時尚ホ銀價下落ノ最上ニ達セ  
スシテ其后益ス下落ノ實跡アリキ即チ一千八百七十六年ニ至  
リテ銀價下落ノ甚シキ紙幣ト虽モ其銀貨相場ヲ踰エルヲ五分  
ニ達シタリ此ニ於テ政府不得已支那通商用ノルウブル銀貨ノ  
外及ヒ全ク流通ノ正貨ヲ欠タル片ノ外銀貨鑄造ノヲ禁シタ

リ以上舉ル処ノ事實能ク以テ金銀相場間一定ノ割合ヲ立ルノ  
難キヲ示スニ足ルヘシ  
同氏又弥ヨ魯西亜政府ヲシテ銀貨ルウブルノ鑄造ヲ停止スル  
ニ決議セシメタル理由ヲ述タル論文附録ヲ將テ之ヲ机上ニ擧  
ゲタリ  
フエルヘルヅツク氏曰ク余ハ此回ノ會議ニ於テ議論ノ深源ニ  
入ルヲ好マス唯合衆國政府カ兩立貨幣制度ヲ恢復シ又銀貨鑄  
造ノ自由ヲ興サンカタメノ目的ヲ以テ發議サレタル二ヶ條ノ  
題旨ハ抑モ真意果シテ如何ナル者ナル乎ヲ説明セント欲ス按  
スルニ實ニ其意トスル処ハ天下偏子ク兩立貨幣ノ制度ヲ採用  
シ其上層ニ銀貨鑄造ノ自由ヲ許スノミナラス各國國際ニ於テ  
ニ貨幣間ノ相場割合ヲ一定セント欲スルニアルヘシ是レ即チ  
當會議論ノ難目ニシテ銀貨恢復ノ主義其中ニ含マレリ然レ其



元來銀ナル鑛屬ハ貨幣ニ違シタル性質ヲ具エタルモノナレハ  
誰人ニテモ曾テ全ク銀貨ヲシテ必ス通用貨タラシム可ラスノ  
論ヲ主張スル者ナカルヘシ蓋シ余ハ之レナキト信スルナリ故  
ニ所謂ル一立貨幣論者ナル者ト兩立貨幣論者ナル者トノ間ニ  
起ル處ノ不同意ハ此ニ成ル者ニ非ス余カ今米國政府カ發議ニ  
付テ最モ奇トスル處ハ天下普ネク兩立貨幣ノ制度ヲ仰クヲ以  
テ可トヤサルヤ將タ物情ヲシテ凡テ現今ノ如クナラシムヘキ  
ヤノ兩端ニシテ今語ヲ換テ其以下ノ者ヲ解説スルハ或ハ現  
今ノ如ク此國ニハ一立金貨ノ制ヲ遵守ヤシメ彼ノ國ニハ一立  
銀貨ノ制ヲ採用ヤシメ今一方ニハ金銀兩立貨幣ノ制ヲ施行セ  
シムルヲ以テ好シトスルカノ疑問是ナリ蓋シ此事ニ付テ敢テ  
高尚ナル議論ヲ得ント欲スルニハ幸ニシテ當會議中歐羅巴ニ  
在テハ金ヲ以テ主トシ亞細亞ニ在テハ銀ヲ以テ本位トナシ兩

端能ク其宜シキヲ得タル英吉利斯國ノ代議者此ニ臨席サル、  
トナレハ即チ同氏カ云ハル、處ハ實ニ重ニシテ之ヲ聽カサル  
ヘカラス尤モ余ニ於テ既ニ余カ議論中之ヲ尽シタルカ如ク余  
ハ全ク亞米利加政府カ發議ニ不同意ナリ要スルニ余カ持論ニ  
依レハ萬國都テ此マテ仕来リタル如ク各々獨是ノ制度ヲ遵守  
シ更ニ他國ニ憚ル處ナク自國ノ國是ヲ達シテ可ナラン故ニ國  
際一定ノ金銀相場割合ヲ立ルノ議ハ余カ曾テ容レザル所ナ  
リ  
カウント、ラスロニー氏曰ク斯ル大事ヲ議スルニ當リ獨リ日耳  
曼國ノ此議ニ与カラサルハ實ニ遺憾トナスヘキトナリ如何ニ  
モシテ彼ノ國ノ代議者ヲモ此會議ニ招クノ術ヲ得ハ其功益必  
ス大ナルヘシト思ハル  
議長ヤイ氏曰ク固ヨリ亞米利加合衆國政府ヨリ日耳曼ヲモ招



キタルヲ疑ヒナシ然レモ竟ニ不幸ニシテ彼ノ國ヨリノ代議者  
ヲ當席ニ見ルヲ得サルハ又聞知ノ一部ヲ失フモノナルカ故ニ  
余ハ當會議ノタメニ深ク亦之ヲ惜メリ  
ジアガアルシミッド氏曰ク蓋シ日耳曼國ノ合衆國政府カ招キ  
ニ應ヤザリシハ必ス其故アルナラン故ニ今若シ彼ノ國ヨリ合  
衆國ニ答フルノ復書如何ンヲ見ルヲ得ハ唯今伊太利亞ノ代議  
者(カウント、ラスコニー氏ヲ指スナリ)カ心頭ニ起リタル遺憾ヲ  
述ヘテ果シテ其功ノアルベキヤ否ナヲ判断シ得ヘシ

其時フエントン氏ハ不幸ニシテ亞米利加合衆國政府ト日耳曼  
國政府トノ間ニ取替ハサレタル往復文翰ヲ所持ヤサリキ又同  
氏ニ於テ正ニ其文面ノ語字如何ナリシヤヲ復唱スル能ハサル  
トヲ陳首サレタリ然レモ凡テ同氏カ確カニ記臆スル處ニ依レ  
ハ其復翰中決シテ彼ノ伊太利亞代議者カ所望ヲ果サシムルノ

道ニ於テ差碍リトナルヘキ事項ナカリシト云ハレタリ

ゴスチン氏曰ク日耳曼國ト虽モ我カ英國同様ノ思考ニ依リ同  
様ノ見込ヲ以テ當會議ニ接スルニ於テハ毫モ自ラ拒ム處ナク  
又嫌フ處ナカルヘシ語ヲ換エテ之ヲ言フハ縱ヒ當會議ノ決  
議ハ何レノ点ニ歸スルニモセヨ彼ノ國自ラ依然トシテ其舊ニ  
依リ一立金貨ノ制度ヲ遵守スルノ意ヲ以テシ又其代議者ニ吟  
咐スルニモ我カ英國政府カ余輩ニ於ルカ如キ同一ノ事柄ヲ以  
テスルニ於テハ一方ニ日耳曼政府ハ當會議ノ決議ノタメニ束  
縛サルノ責ナキノミナラス又他方ニ於テ凡テ當會議ニ輻集  
スル處ノ知識聞見ニ就テ學ンテ自ラ利益ヲ得ント曾テ我カ英  
國政府ニ異ナルトナカルヘシ固ヨリ英國政府ニ於テ此回ノ會  
議ニ参与ヤントニ決定シタルハ即チ以上述フル處ノ見込アル  
ト又我カ國印度ニ接スル貨幣上ノ利害ヲ探知ヤンカタメトニ



由レルナリ実ニ我カ英國政府ハ其歐羅巴ニアラニ限りハ此シ  
モ自國貨幣制度上ノ術策ヲ改ムルヲ要ス又之ヲ改ムルノ意  
ナシト虽モ其亜細亞ニ在テハ專ラ一立銀貨ノ制度ヲ施行スル  
カ故ニ抑モ今回ノ如キ主トシテ銀貨ニ関セル事柄ヲ論究ヤン  
カタメノ會議ニ接スルノ機會ヲ捨テ曾テ徒ラニ傍觀スルノ愚  
アルヘキ理ナシ

カウント、ラスコニー氏再々其所望ヲ達ヤントヲ切求シ若シ日  
耳曼ヲ誘フニ曾テ英國政府ヲシテ當會議ニ參與ヤントニ決定  
ヤシメタル處ノ利害ヲ以テスルニ於テハ必ス當會議ノ招需ニ  
應ヤント必セリト云ハレタリ

ジヤガアルシミツド氏曰ク熟ラ會議上ノ情態ヲ察スルニカウ  
ント、ラスコニー氏カ所望ニ應シテ彼ノ日耳曼政府ヲ招カント  
欲スルノ意アルカ如シ若シ弥ヨ之ヲ為スノ意アラハ既ニ此マ  
テ有リ来リタル議論等ヲ併ヤ當會議ノ日誌ヲ以テ彼ノ國政府  
ニ贈リ凡テ議員ノ連名ヲ以テ曩キニ幸ニカウント、ラスコニー  
氏カ衆ニ代ツテ發言サレタル遺憾ノ情ヲ寫シテ以テ同シク之  
ニ附シテ可ナラン

衆皆ナ此議ヲ容レ議長ニ就テ為メニ其勞ヲ尽サレシトヲ望ミ  
タリ

此日午後第四時三十分ヲ以テ閉會シタリ



第二回會議憑書類

第一号憑書

大英合衆國及其殖民地領分地ノ貨幣制度誌

一金ノミ獨リ貨幣ノ本位ナリ

一正貨幣ハ零九一六位ナリ即チ語ヲ換エテ之ヲ謂フトキハ純金十二分ノ十一ニシテ餘リ十二分ノ一ハ雜セ物ナリ

一正貨幣ハ獨リソヴレン貨ト半ソヴレン貨アルノミ

但シ五ソヴレン貨アリシト虽モ之ヲ流通ニ用キタルナレ

一ソヴレンハ即チ正貨一封度ノ別稱ニシテ純金百十三、〇〇

一ゲレン(七、三二二五)グラムニ等シヲ含メリ即チ本位金百二十

十三、二七四四七ゲレン(七、九八八零五)グラムニ當レリ

大英合衆國



一「ソヴレン」貨ト半「ソヴレン」貨トハ若シ摩耗シテ其量各々百二十、五「ゲレン」及ヒ六十一、二五「ゲレン」以下ニ減量セサルトキハ何処マテモ通貨ノ効カヲ具ヘ以テ法律上負債ヲ拂フニ足ルヘシ

一若シ磨耗シテ右定度以下ニ減量セルトキハ則チ通貨タルノ効カラ失ヒ凡テ斯ル減量貨幣ノ「英吉利斯銀行」手ニ来ル「ソヴレン」ハ即チ之ヲ切断シ帝ニ右量目ノ本位地金ノ價ヲ以テ之ヲ受取ル者トス

一之カ故ニ磨耗シテ減殺セシ處ノ損耗ハ人民公衆ノ之ヲ負フ者ト云フヘシ

一誰人ニテモ鑄造ノタメ地金ヲ造幣局ニ携エ行キ為メニ至當ノ印形ヲ刻シ以テ量位トモニ法律ニ適シタル通用貨ナルノ証ヲ表セル處ノ貨幣ニ製造シ貫フ「ソヴレン」ヲ得ヘシ而シテ其法律

ニ適フ所ノ量位ト稱スルハ即チ本位金目方金銀量ニテ「ソヴレン」三十一、一零三五ニ等シヨリ通貨三封度十七志十ト半斤ヲ製シ出スノ割合ニシテ即チ本位金目方金銀量ニテ四十磅ヨリ千八百六十九「ソヴレン」ヲ製出スルノ割合ナリ

一若シ如斯クシテ造貨局エ持參セル地金ノ金位一般ノ本位ヨリ強ク若クハ弱キトキハ則チ造幣局ニ於テ其地金持主ノタメ其強弱ニ從ヒ或ハ純金ヲ加エ或ハ雜セ物ヲ加フル可シ是レ即チ其金位ヲシテ一般ノ本位ト同様ナラシメシカ為メナリ

一英吉利斯銀行ハ法律ニ依リ凡テ誰人ニテモ金ヲ持參シ来ル者アレハ則チ本位「ソヴレン」ニ付三封度十七志九片ノ割合ニテ之ヲ受取ルヘキノ義務アルモノトス

一英吉利斯銀行ハ如斯ク地金ヲ受取リテ其カ代リニ正貨ヲ引



渡シ更ニ右地金ヲ正貨ト為シ得ルマテノ間ニ起ル所ノ利子  
 ハ本位金一「フランス」毎ニ一片半ノ廉價ヲ以テ之ヲ受取ルカ故  
 ニ之ヲ以テ彼ヲ償フニ足ルモノトセリ其上尚ホ手数料トシ  
 テ些少ノ利潤ヲ得ルノ例アリ  
 一 今一方ニ於テ凡テ地金ヲ所持スル者ハ自ラ之ヲ造貨局ニ持  
 参スルトキハ其利子及ヒ手数料決シテ僅カ一片半位ニテ足  
 レハキニ非サルハ多ク英吉利斯銀行ノ手ヲ經テ之ヲ鑄造シ  
 得ルナリ故ニ現今流通中ニ在ル処ノ金貨ハ多分該銀行ヲ經  
 テ世ニ出タル者ナリ

一 銀貨及ヒ銅貨ハ之ヲ際言スレハ所謂ル代用貨ナルモノニシ  
 テ皆ナ金貨「ソヴレシ」ノ小部分ヲ表スルナリ而シテ其種類ヲ  
 舉クル即チ左ノ如シ

「クラウン」即チ五志銀貨 一「ソヴレシ」ノ四分一

半「クラウン」即チニ志六片銀貨	全	八分一
「フロリン」即チニ志銀貨	全	十分一
銀貨 一志銀貨	全	二十分一
六片銀貨	全	四十分一
「グロート」即チ四片銀貨（今日不鑄造）	全	六十分一
三片銀貨	全	八十分一
一片銅貨	一「ソヴレシ」ノ二百四十分一	
銅貨 半片銅貨	全	四百八十分一
「ファーンシク」銅貨	全	九百六十分一

此外別ニ一片銀貨及ヒ二片銅貨ノ鑄造サルハアリト虽モ共  
 ニ一般ノ通用ヲナシタルヲナシ  
 一 銀貨ハ四十志限り之ヲ通用貨幣ト認ム故ニ四十志以下ノ負  
 債ハ法律上銀貨ニテ之ヲ辨濟シ得ヘシ

大 裁 省



一 銅貨ハ一志限リ之ヲ通用貨幣ト認ム故ニ一志以下ノ負債ハ法律上銅貨ニテ之ヲ辨濟シ得ヘシ  
一 貨幣用ノ銀ハ凡テ零九二五即チ四十分ノ三十七位ナリトス而シテ今日ノ相場ニテ銀目方一「オン」ス（金銀量ニテ）ノ價ハ五十二ト半志ニシテ之ヨリ一志銀貨六十六個ヲ鑄造スルナリ蓋シ如此キモノハ固ト是レ銀目方一「オン」スノ價六十志ナリシトキニ定メラレタルナリ

一 貨幣用ノ銅（其實青銅）ハ其制佛蘭西銅貨鑄造制規ニ等シク一磅（物質量ニテ）ヲ以テ一片貨四十八個ヲ鑄造スルノ割ナリ然レモ半片貨ニ至テハ其割合ヲ減シ即チ一磅ヨリ八十個ヲ製出シ「フアレン」グ貨ハ百六十個ヲ製出スルノ割合ナリ  
一 之ニ依テ是ヲ觀レハ凡テ其銀貨及ヒ銅貨ニ接スル其價ノ低小ナルニ比スレハ寧ロ過大ノ鑄造手数料ヲ差引クモノト謂

ハサル可ラス是レ即チ金貨鑄造ノ費用ヲ補ハンカタメノ手段ニシテ又到底銀貨ヲシテ跡ヲ流通間ニ絶タシメンカ為メノ術策ナリ故ニ銀貨ノ如キハ若シ其表面ノ印刻若クハ價表ノ磨耗ニテ見ル可ラサル程ノ姿ニ及ハハ忽チ之ヲ流通間ヨリ引去ルノ例ナリ

### 英印度

一 英印度ニ於テハ「ルウビイ」銀貨ヲ以テ貨幣トシテ貨幣ノ本位トナシ再ヒ之ヲ分ツテ「ルウビイ」四分一「ルウドイ」及ヒ八分一「ルウビイ」トナス而シテ一「ルウビイ」銀貨ノ目形ハ金銀量ニテ百八十「ゲレン」ニシテ其中純銀百六十五「ゲレン」雜セ物十五「ゲレン」ヲ含有スルノ定規ナリ而シテ前ニ掲ル処ノ餘他小分貨幣モ亦之ト同一ノ本位及ヒ割合ヲ以テ成リ即チ純銀十二分ノ十一雜セ物十二分ノ一ヲ合スル者トス



一「ルウビイ」貨及七半「ルウビイ」貨ハ是レ法律ノ認メテ以テ通  
用貨ト為ス処ニシテ其貨幣ノ定量目百分ノ二以上ヲ減スルカ  
若クハ尋常手磨レノ外或ハ之ヲ刑リ之ヲ鑄耗シ之ヲ貶位レ  
テ其目形ヲ減スルナキ上ハ決レテ右通貨タルノ効カラ失  
フナレトス

一四分一「ルウビイ」及七八分一「ルウビイ」ハ僅カニ一「ルウビイ」未  
満ノ高ニ限リ之ヲ通用貨ト認ムルモノナリ

一金貨ハ「モハル」即チ十五「ルウビイ」貨十「ルウビイ」一「モハル」ノ三  
分二「貨五」ルウビイ一「モハル」ノ三分一「貨及七二」モハル即チ三  
十「ルウビイ」貨アリ

一「モハル」金貨ハ其目形金銀量ニテ百八十「ゲレン」ニシテ其中百  
六十五「ゲレン」ハ純金十五「ゲレン」ハ雜セ物ナルノ定規ナリ而  
シテ餘他諸金貨ハ悉ク皆チ其金位及ヒ量目トモ之ニ準スヘ

キモノトセリ

一金貨ハ一モ通用貨トシテ法律上負債ヲ拂フニ足ルヘキノ効  
カラ有スルモノナシ

一銅貨ハ二「バイス」即チ半「アンナ」貨一「バイス」即チ四分一「アンナ」  
貨半「バイス」即チ八分一「アンナ」貨及ヒ一「バイス」即チ三分一「パ  
イス」若クハ十二分一「アンナ」貨アリ而シテ二「バイス」銅貨ノ量  
目ハ即チ金銀量ニテ二百「ゲレント」定メ餘他ノ諸銅貨ハ皆チ  
之ニ準スヘキノトセリ

一銅貨ハ一「ルウビイ」未満ノ高ニ限リ之ヲ通用貨幣トナシ以テ  
法律上負債ヲ拂フニ足ルヘキノ効カアリトス

一カルカツタア及ヒボムベイノ官立造幣局ハ金銀地金及ヒ貨  
幣ヲ取入レンカタメニ設立サレタルモノニシテ誰人ニテモ  
若シ定則金位ニ違ハサルト確カナル金銀ヲハ此處ニ持參シ

心 歳 省



金ナラハ百分ノ一銀ナラハ百分ノ二ノ鑄造料及ヒ金ナラハ  
一 一万分ノ二ト半銀ナラハ十分一ノ鑄解料ヲ拂フテ之ヲ正貨  
ニ製造シ貫ヒ受ルヲ得ヘシ  
一 加利癸爾呢亞州ニ於テ彼ノ金山癸見アリシ前ハ凡テ印度政  
府ハ金「モハル」貨ヲ以テ租稅ヲ納ムル事ヲ許シ居タリシカ彼  
ノ癸見ノタメ益ス金産ノ量額増加シ加フルニ其曾テ法律上  
通貨ト認ムルヲナキカ故ニ人民一般ニ之ヲ受取ルヲ好マ  
ス又之ヲ受取ルヘキノ義務ナキヲ以テ之カタメ政府ノ庫藏  
ハ金貨ノ積スル処トナリタリ之カタメ政府新ニ布告ヲ癸  
シ凡テ一千八百五十三年一月一日以後ハ鑄造ノタメ造幣局  
ニ於テ金貨ヲ受取ルノ外決レテ之ヲ諸上納ニ用フ可ラサル  
ヲ令レタリ  
一 其後一千八百六十四年ニ至リ印度政府ハ彼ノ「ソヴレン」ヲ以

テ印度通貨ノ一部トシ之ヲ用キ「ソヴレン」ヲ欲シ隨テ布告ヲ癸シ  
即チ「ソヴレン」貨及ヒ半「ソヴレン」貨ハ各十「ルウビイ」及ヒ五  
「ルウビイ」ニ等シク之ヲ通用セシムヘキヲ令レタリ然レモ  
若シ之ヲ持參シテ為替市場ニ至ルトキハ一層高貴ナル割合  
ニテ賣却シ得ヘキヲ以テ誰アツテ之ヲ上納ニ用キル者ナカ  
リキ之ニ於テ政府更ニ布告ヲ癸シテ「ソヴレン」貨及ヒ半「ソ  
ヴレン」貨ハ各十ト四分ノ一「ルウビイ」及ヒ五ト八分ノ一「ルウ  
ビイ」ノ割合ニテ之ヲ受取ルヘキヲ令レタリト虽モ尚ホ為  
替市場相場ノ之ニ勝リタルヲ以テ此布告モ亦其切ヲ奏スル  
コト能ハサリキ  
一 此ヨリ後チ今日ニ至ルマテ政府ニ於テ最早ヤ再ヒ「ソヴレン」  
ヲシテ通貨ナラシメント企ルノ舉ナカリキ

殖民地



一英國殖民地地方ニ行ハル、処ノ貨幣制度ハ固ト何レノ處ヨリ  
来リタルカ知ラント欲セハ以下ノ事實ニ注意セサル可ラス  
即チ英吉利斯政府ノ素ト同是ト為セシ処ハ凡テ其領地及ヒ  
殖民地地方ニ於テ齊シク大英合衆本國ノ貨幣制度ヲ遵守セシ  
メンコトヲ謀ルニ在リシモ如何セン諸領地及ヒ殖民地地方ニ於  
テハ各々此マテ仕来リノ貨幣制度アリテ就中ノ旧西班牙金  
貨「デウブルー」<sup>ル</sup>及ヒ銀貨弗ノ多キヲ以テ一時忽チ之ヲ排拆  
スルコト能ハス不得已英國本来ノ正貨ト共ニ同シク此等貨幣  
ノ併立通行スルヲ明許スヘキノ場合ニ立至リ如斯クシテ竟  
ニ両立貨幣ノ制度ヲ起スニ及ヒタリ  
一然レモ實驗ニ依テ之ヲ証スルニ原来英國貨幣ノ制度ハ其殖  
民地中能ク之ヲ通行スヘキモノアリト虽モ亦東洋諸方ノ用  
銀諸地及ヒ香港ジブラルタル及ヒ英領ホンドラスノ如キ他

國領内ニ在ル所ノ狭小ナル駐兵地ニ於テハ強ヒテ之ヲ遵守  
セシムルコト能ハサルノ勢アリキ之ニ依テ晚年ニ至リ英國政  
府ハ敢テ布告ヲ發シ凡テ用銀地方ニ位セル諸殖民地ニ於テハ  
一立銀貨ノ制度ヲ遵守シ諸駐兵地ニ於テハ其ノ隣スル所ノ  
國土ノ法ニ習ハシムヘキコトヲ令シタリ然リト虽モ後段ニ於  
テ説明スル如ク以上述ル處ノ方策ハ英吉利斯政府ニ於テ其  
關係尠ナキ諸殖民地ニ際シテハ全ク之ヲ実行セサルノ例多  
シトス

一以下諸殖民地地方ニ於テハ一立金貨ヲ以テ貨幣制度ト為セリ  
即チマルタ喜望峯及ヒナタル豪洲諸殖民地及ヒニウヰイラ  
ントジブラルタル加那多領分及ヒニウヰアウヰンドラシド是  
ナリ今其各者ニ付テ細説スル処アラントス

ニウヰアウヰンドラシド



一 此地ニ於テハ亞米利加合衆國金貨及ヒ西班牙旧「ゲウブル」  
シ「貨」ニ付キ各其相場ヲ定メテ之ヲ通用シ傍ラ大英金貨ノ其  
実有ノ價ニテ之ト併行スルモノアリ

一 純銀目方金銀量ニテ三百七十三「ゲレン」ヲ含有セリ一弗銀貨  
及ヒ其小分銀貨ハ其高十弗ヲ限リ通用貨ト見做シ大英銀貨  
モ亦之ニ同シ而シテ銅貨ニ至テハ僅カニ金高二十五「セント」  
ヲ限リ通用貨ノ効カヲ有スルモノトセリ

一 差引勘定ハ凡テ弗ト「セント」ノ称号ヲ用ユト虽モ其本位トナ  
ス所ノ弗銀ハ唯想像ニノミ係ルモノニシテ其定立本位ハ亞  
米利加合衆國金貨弗ニ比シテ九百八十五ト一千トノ割合ナ  
リ又大英「ソヴレン」貨ニ比スレハ四百八十ト一千トノ割合ナ  
リ

マルタ

一 此地ニ於テハ凡テ英金正貨ノミヲ以テ通用貨ト為セリ而シ  
テ凡テ貨幣ハ之ヲ彼ノ「ロヤル」(王室ノ意)造幣局ヨリ給支スル  
ノ定規ナリ

喜望峰、ナタル及ヒトランスヴァール

一 此等ノ諸地ニ於テモ亦凡テ英金正貨ヲ以テ通用貨ト為シ其  
金貨ノ如キハ之ヲ英國若クハ豪洲ヨリ支給シ其副用銀貨ニ  
至テハ之ヲ「ロヤル」造幣ヨリ支給ス而シテ銅貨ハ其數實ニ微  
々タリ察スルニ遠カラズシテ大英正貨ノ近頃加領サレタル  
トランスヴァール地方ニ波及スル「アール」ハシ但シ右地方ハ  
此マテ一ニ紙幣ノミヲ以テ通用ニ供セルナリ

豪洲諸殖民地及ヒニウヰイランド

一 右諸殖民地ニ於テハ英國正金貨ヲ以テ通用貨トナシ共ニ  
ケ所ノ造幣局ヲ有シ其一ハ「ガイクトリヤ州」内ノメルホニニ



在リ其二ハ新南ウヰルス州内ノレドニ一ニ在リ凡テ以上  
ニヶ所ノ造幣局ハ金貨鑄造ノタメニ設ケラレタルモノニシ  
テ此處ニテ鑄造シタル金貨ハ獨リ大英國内ノミナラス其他  
彼ノ國正貨ノ法律上通用効カラ備フルノ諸殖民地ニ於テハ  
齊シク亦通用正貨ノ効カラ有スルモノトス  
一 豪洲及ヒニウヰイランドニ於テ使用セル副用貨幣ハ凡テ彼  
ノロヤル造幣局ヨリ之ヲ支給スルナリ

ジブラルタル

一 一千八百七十二年ノ頃マテハ此殖民地中西班牙貨幣ヲ以テ  
法律上ノ通貨ト為シタリシモ英吉利斯政府ハ之カタメ其兩  
立貨幣制度ニ赴カントスルヲ患ミ金位十分ノ九ヲ具エ最モ  
輕クシテ尚ホ百二十八、七「ゲレン」ノ重量ヲ有セル所ノ「ドブロ  
ン、チザベル」金貨(實有ノ價ハ其九十八ヲ以テ百封度ニ歎ス)ヲ

將テ之ヲ通用本位トナセリ而シテ其弗貨及ヒ餘他副用貨幣  
ニ至テハ金高ニ制限ヲ立テ右ヲ限リ通用貨幣ト見做セリ  
一 然ルニ今日ニ至テハ西班牙政府ハ縱ヒ其盟約中ニ入サルモ  
既ニ彼ノ羅甸同盟諸邦ノ貨幣制度ヲ採用セルヲ以テ茲ニ「ジ  
ブラルタル」貨幣制度上ニ變革ヲ起シ金位十分ノ九ヲ具エ重  
量百二十四、四四六「ゲレン」ヲ有セル彼ノ「アルフォニワー」金貨  
即チ二十五「ピセタ」貨ヲ以テ彼ノ「ダブロン、チザベル」貨ニ代用  
セサル可ラサルノ勢トナレリ(但シ「ピセタ」ハ「フランク」若  
クハ「リイラ」ニ等シクシテ「アフロンソ」實用ノ價ハ十九  
ト十分一「フランク」ニ當ル)蓋シ方今英國大藏省ニ於テ頻リニ  
右改正ノ評議アリト云ヘリ

加那多領地

一 此地方ニ於テハ純金目方二十三、二ニ「ゲレン」及ヒ十分ノ九位



金目方二十五、八「ゲレン」ヲ含有セル金貨弗ヲ以テ本位通用貨  
トナシ凡テ差引勘定ニハ弗「セント」「マイル」称号ヲ用ユ  
一英國「ロイヤル」貨ハ四弗八十六ト三分ノ二「セント」トシ五米利  
加合衆國「イール」貨ハ十弗トシ及ヒ餘他之ニ倍シ若クハ之  
ヲ分タル諸貨幣ハ各之ニ準シテ法律上通用ノ効力ヲ有スル  
モノトセリ

一加那多領分内ノ通貨幣ハ殆ント凡テ紙幣ヲ以テ成リ立ツト  
云テ可ナリ別ニ副用正貨ノ存スルモノアリト虽モ其量額至  
テ僅カナリ而シテ右副用銀貨ハ凡テ之ヲ彼ノ「ロイヤル」造幣局  
ヨリ支給セリ然レモ實際領分内通用ノタメニハ決シテ不足  
ナク又不便ナシ其金位ニ至テハ即テ大英合衆國正貨ト異ナ  
ル「ナク」同シク四十分ノ三十七位ナリ  
一加那多領内ノ諸銀行ニ於テ多量ノ英吉利斯及ヒ合衆國金貨

ヲ貯蓄スル者アリト虽モ實際流通間ニ於テ合衆國金貨ヲ見  
ル「甚」タ稀ニシテ英吉利斯金貨ニ至テハ尚ホ一層寥微ナリ  
ト云フ

一以下諸殖民地ノ通用貨ハ凡テ悉ク一立銀貨ノ制度ニ基ケリ  
即テ香港、海峽在諸殖民地「ロン、モーリ」チヤス是ナリ

香港

一 一千八百六十二年以降メキシコ弗若クハ之ト同價ノ餘他銀  
貨ヲ以テ香港中唯一ノ通用貨トナシ法律上何処マテモ負債  
ヲ拂フニ足ルモノトナシタリ其他殖民地中自ラ副用貨幣(但シ  
彼ノ「ロイヤル」造幣局ヨリ支送ルモノナリ)ヲ有シ其中銀貨ハ其  
高二弗ヲ限リ銅貨ハ一弗ヲ限リ之ヲ通用貨幣トナセリ  
一 先ツ其定規ニ準スレハメキシコ弗ハ十分ノ九位銀目方四百  
十六「ゲレン」ヲ含有スルモノトスルカ故ニ即テ純銀三百六十



四、四「ゲレン」ヲ含有スヘキ理由ナリ然レハ一千八百七十二年ニ至テ稀ヤ之ニ比スレハ重量ノ弗銀流通間ニ出テ来レリ今彼ノ「ロヤル」造幣局ノ分析表ニ依レハ方今流通ノメキシコ弗ハ四百十七、四八「ゲレン」即チ純銀ニテ三百七十五、七三二「ゲレン」ヲ含有セリト云フ

一 曾テ一千八百六十二年ヲ以テ香港ニ於テ彼ノ「メキシコ」弗同價ノ弗銀ヲ鑄造センカタメ一ノ造幣局ヲ設立シタリト虽モ其費用ノ多額ナルヲ以テ竟ニ一千八百六十九年ニ至テ之ヲ閉チタリ

一 曾テ香港居留人ヨリ合衆國貿易銀貨ニ附スル通用貨タルノ効カラ以テセン「」ヲ額ヒ出テタリ右ニ付英國大藏省ニ於テハ更ニ異議ナキ旨ヲ指令サレタリ然レハ併セテ戒告シテ曰ク取引ノ大額ニ至レハ商人間ノ慣習ニヨリ帝ニ貨幣面ノ

頭數ノミニ準リテ勘定ヲ立テス一々權衡ニ依リテ之ヲ遣取スルモノナリ然ルニ彼ノ合衆國貿易銀ハ其量目四百二十「ゲレン」ニシテ尋常平均ノ「メキシコ」弗ニ比スレハ百分ノ二ト半乃至三分強キカ故ニ必ス之ヨリ困難ノ起リ来ル「」アルヘシ然レハ竟ニ近年ニ至リ合衆國政府ハ貿易銀ニ造幣稅ヲ課スルノ法ヲ肇メタルニヨリ之レカタメ該銀貨ノ右殖民地内ニ入り来ルモノ甚タ減少スルニ至リタリ

海峡在諸殖民地

一千八百七十五年癸克ノ條例ニ依リ海峡在諸殖民地方ニ於テハ合衆國貿易弗銀及ヒ日本圓銀（方今合衆國貿易銀弗ニ擬フテ之ト同量ノ目「」ヲ有スルモノ）ヲ以テ通用貨幣トナシ加フルニ彼ノメキシコ弗ヲ以テセリ餘他貨幣ノ事ニ至テハ毫モ香港ニ異ナル処ナシ



一 此殖民地ニ於テハ一千八百六十九年以降十二分ノ十一位ニテ其目方百八十「デレン」(即チ純銀ニテ百六十五「デレン」ヨリ当ル)ノ東印度「ルウピイ」及ヒ其小分銀半「ルウピイ」貨四分一「ルウピイ」貨及ヒ八分一「ルウピイ」貨ヲ以テ獨リ制限ナキ通用貨トナシ副用ノ銅貨ハ半「ルウピイ」限リ之ヲ通用貨トナセリ

モーリチヤス

一 此島内貨幣ノ事タル大ニ煩雜ニ涉レリ即チ曩キニ兩立貨幣ノ制行ハレタリト虽モ一千八百七十六年ニ至テ之ヲ改革シ爾来「ルウピイ」ヲ以テ價ノ起標トナシ即チシロンニ彷彿タル一種ノ貨幣制度ヲ興シタリ而シテ唯タ其異ナル所ハ爾来新ニ入り来ル処ノ銀銅副用貨幣ハ凡テ五「ルウピイ」ヲ限リ之ヲ通用貨幣ト認ムヘキノ制条アルノミナリ但シ以上謂フ処ノ

副用貨幣ハ凡テ彼ノ「ロヤル」造幣局ニテ鑄造サルモノヲ指スナリ

西印度諸殖民地

一 英領ホンデウラス及ヒバハマヲ除クノ外西印度諸殖民地ニ行ハルル処ノ通用貨幣ハ悉皆大英副用銀貨ヲ以テ成レリ而シテ右銀貨ハ何処マテモ法律上負債ヲ拂フニ足ルヘキ通貨タルノ効カラ有セリ盖シ畢竟今日ノ貨幣情態ニ至ルマテノ履歴ハ事煩雜冗長ニシテ容易ニ之ヲ説明シ難シト虽モ今其要畧ヲ擧クルニ凡ソ西印度諸殖民地方ニ於テハ降テ近年ニ至ルマテ兩立貨幣ノ制度ヲ遵守シ其價六十四志トシテ「ゲウバル」金貨及ヒ四志ニ片トシテ銀貨弗及ヒ四十一志トシテ亜米利加「イールド」金貨等々大英國正貨ト共ニ通用貨タルノ効カラ具ヘテ流通間ニ依行シタルナリ然ルニ追々全價

大英 省



下落スルニ後テ弗貨ハ其跡ヲ絶チタリ今一方ニ於テ英吉利  
斯銀貨ハ何処マテ通用貨視スヘキヤノ制限ナカリシヲ以テ  
諸殖民地間ニ於テ實際取引ニ供スルモノハ獨リ右銀貨アル  
ノミニ至リタリ然リ而シテ若シ通貨上久シク如斯基景勢ヲ  
存スルニ於テハ諸銀行専マニ貨幣市上ノ権柄ヲ弄シ以テ私  
利ヲ營ムノ機會ヲ得ヘキカ故ニ此制大ニ彼等社會ノタメニ  
奇貨視サレタリ然レモ本國政府ハ大ニ之ヲ憂ヒ屢々大藏省  
ヨリ説諭ヲ加エ島民ヲ誘導シテ爾來本國ノ制度ニ倣ヒ彼  
ノ四十志限リ銀貨通用ノ制規ヲ受ケシメントニ尽力シタ  
リト虽モ常ニ彼ノ銀行輩ノタメニ妨碍サレテ其功ヲ奏ス  
ルト能ハサリキ

然ルニ晩年ニ至リ一般銀價ノ下落スルト甚タシク之カタメ  
依ノ弗銀(西印度諸殖民地間ニハ獨リ之ノミヲ盛ニ通用シ

居タルナリ)大ニ金貨及ヒ英國副用銀貨ノタメニ壓倒サレタ  
リ(固ヨリ副用銀貨ト虽モ金貨ト等一ノ價ヲ占メタルナリ)之  
ヨリシテ彼ノ銀貨ハ龍動市場ニ於テハ四志ヲ下ルト幾干ニ  
シテ之ヲ買ヒ得ヘク之ヲ殖民地ニ携エルトキハ則チ四志ニ  
於テ以テ通用シ得ヘキカ故ニ俄ニ之ヲ島中ニ輸シタリ之ニ  
於テ島民ハ曾テ其跡ヲ滅シタル弗銀貨ノ一時ニ潮來セシニ  
由リ驚愕スルト勘カラス急ニ本國政府ニ懇願シケレハ即チ  
弗銀ノ通用効カラ剥奪スルトヲ令シタリ依テ竟ニ島中一統  
及ヒ英領ギヤナニ於テ一立金貨ノ制度ヲ肇ムルニ至リタリ  
然レモ此時未タ英國銀貨通用上ニ一ノ制限タモ置カサリシ  
ヲ以テ殖民地間貨幣ノ制度ハ其金貨起標ニ依ラスシテ却  
テ副用銀貨ニ基ヒスルノ有様ニ立テ至リタリ此レカタメ曩  
キニ英國政府ヨリ西印度諸島ノ知府ニ傳達シテ現行貨幣制



度ノ弊害ヲ説キ且ツ本國制度ニ符合セル制度ヲ興スヘキ  
ヲ勸奨シタリ

一 ピアメーカ島ノ土民ハ銅貨ヲ嫌エルニ由テ彼ノ島ニハ副用  
ニツケル貨ヲ通用セリ而レテ右副用貨ハ凡テ之ヲ「ロヤル」造  
幣局ヨリ製出スルナリ

英領 ホンデウラス

一 此島ニ関セル貨幣制度ノ履歷中實ニ奇異トナスヘキモノ多  
シト虽モ今唯タ当用ニ適スルマテノ事柄ヲ擧クルニ原来此  
島ノ貨幣制度タル曾テ一千八百七十六年ニ於テ弗貨ノ其通  
用効力ヲ失ヒタル以前即チ未タ通用貨タルノ頃類リニ西印  
度諸殖民地方ニ於テ行ハレタル制度ニ彷彿タリ然レモ英領  
ホンデウラスハ狭小ナル殖民地タルニ過キス加フルニ近圍  
ノ諸國皆ナ銀貨通用ノ制ヲ実行スルニヨリ自ラ之カ傳染ヲ

ヲ受テ其通用貨幣ハ殆ント凡テ中央亞米利加協和諸邦及ヒ  
合衆國ノ弗銀ニ限レリ是レ又英國大藏省ニ於テ近来頻リニ  
評議サル、処ニシテ其議論ノ向フ処恐クハ此島ノ如キ實際  
金貨ヲ流通間ニ見サル地方ノ便要ニ適センカ為メニハ一立  
銀貨ノ制度最モ可ナルヘシノ点ニ在リト云フ

バハマ諸島

一 此諸島殖民地ニ於テモ原来亦彼ノ西印度諸島ニ於テ弗貨未  
タ其通用効力ヲ失ハサル前ノ有様ニ彷彿タル制度ヲ見ル然  
レモ原来此諸島ハ最モ合衆國ニ近キ地位ヲ占ルニ依リ其通  
貨ハ殆ント全ク彼ノ合衆國ノ貨幣ナリ

一 トルクス島及ヒサイコス島モ亦右ニ異ナル処ヲシト謂テ可  
ナリ

西亞弗利加諸殖民地及ヒ金濱殖民地



一 亞弗利加西濱諸殖民地ハ大英正貨ヲ以テ法律上ノ通貨ナ  
シ加フルニ「デヴブルーン」金貨銀弗貨佛蘭西金銀貨合衆國西  
班牙及ヒ葡萄牙金貨ノ之ト併行スルアリ  
一 此等地方ニ於テハ巖塊金及ヒ砂金トモ「オンス」毎ニ七十二  
志ノ割合ニテ之ヲ遣取りセリ

セント、ヘレナ島

一 此島ノ通貨ハ同レク大英正貨ニシテ加フルニ其價六十四志  
ノ割合ニテ「デヴブルーン」金貨及ヒ四志ニ片ノ割合ニテ銀弗  
貨ノ之ト併行スルアリ

附言

其殖民地内限リノ通用ニシテ自ラ其地固有ノ副  
用貨幣ヲ有スル諸殖民地ニ際シテハ「ロヤル」造幣局右副用貨  
幣鑄造ノタメ實際ノ入用費ノ外之ヲ課スルナク故ニ其利  
潤ハ殖民地内ニ入ル可シト虽モ大英國貨幣制度ヲ

ハ其依ニテ遵奉セル殖民地ニ際シテハ固ヨリ其副用貨幣ノ  
製造ヨリ来ル処ノ利分ハ之ヲ本國々庫ニ收ムルモノナリ

ジイ、ゼイ、ゴス、テン、識



第二号憲書

阿蘭陀及ヒ其殖民地貨幣制度誌

- 一 法律上制限ナク何処マテモ負債ヲ拂フニ足ルヘキ効カヲ有  
スル処ノ通用貨幣ハ阿蘭陀及ヒ其殖民地地方トモ更ニ異ナル  
処ナク齊シク金貨ト銀貨ナリ
- 一 銀貨ハ一「フロリン」五十「セント」貨アリ一「フロリン」貨アリ又五  
十「セント」貨アリ而シテ其分量ハ各々一「フロリン」ニ付純銀九、  
四五「グレシ」ヲ含有スルノ割合ナリ
- 一 金貨ハ一ニ十「フロリン」貨アルノミナリ而シテ其量目ハ一「フ  
ロリン」毎ニ純金零、六〇、四八「グレシ」ヲ含有スルノ場合ナリ故  
ニ金銀間ノ比較相場ハ一ト十五、六二五トノ割合ナリ
- 一 小分貨幣ハ阿蘭陀本國ト其殖民地地方ト其制ヲ異ニシ二十五  
「セント」以下ノ貨先アルノミナリ



一 銀貨鑄造ノ一ハ以前其二「フロリン」五十「セント」貨一「フロリン」  
 貨及七五十「セント」貨ニ際シテハ更ニ制限スル処ナカリシモ  
 近来数年間之ヲ政府ノ随意ニ屬セシメタリ又金貨鑄造ノ一  
 ハ尚ホ依然トシテ其自由ヲ保存セリ  
 一 曾テ一千八百三十九年貨幣法律發行ノ日以降ニ「フロリン」五  
 十「セント」貨一「フロリン」貨及七五十「セント」貨等ノ數銀貨ニテ  
 鑄造シタル量額ハ四億六千百万「フロリン」ナリキ  
 一 右鑄造銀額中殖民地地方ニ於テ其銀ヲ得テ飾具トナサンカタ  
 ノ再ニ鑄解シタルモノ實ニ多シ  
 一 一千八百七十五年六月六日貨幣律發行以來鑄造セシ金貨ノ  
 惣高ハ六千八百万「フロリン」ナリキ  
 一 方今阿蘭陀諸銀行所有ノ金銀惣額ハ小分貨ヲ除キ地金及ヒ  
 外國貨幣ヲ込メ大畧銀一億三千三百万「フロリン」金七千四百

万「フロリン」ナルヘシ而シテ殖民地地方ニ際シテハ其所有高ヲ  
 槩算スル一能ハス

一 國際兩替相場割合ニ涉リ及ヒ各貨幣表面ノ數額ニ付一般ニ  
 貨幣ノ相場ヲ立ルハ決シテニ「フロリン」五十「セント」一「フロリ  
 ン」及ヒ五十「セント」等ノ銀貨ニ依ルモノニアラスシテ常ニ十  
 「フロリン」金貨中ニ含有サル、金ニ依テ之ヲ定ムルナリ

千八百七十八年八月十六日

ダガリウ、レイ、ミイス識

大蔵省



第三号憑書

フエントン氏ヨリ會議机上ニ舉ラレタル貨幣疑問ニ涉  
レル記録類及ヒ書籍類目錄

第一 一千八百七十七年大藏省報告書

第二 リンタルマン氏著述貨幣及ヒ通用貨論

第三 欠

第四 一千八百四十一年ヨリ一千八百七十二年ニ至ルマテノ

間ニ發達サレタル通貨及ヒ公債証ニ涉レル議院條例

第五 第十一 一千八百七十四年發兌合衆國造幣局及ヒ分析局

事務取扱方心得書及ヒ制規

第六 一千八百七十三年六月三十日ヲ以テ終レル會計歲期ニ

關セル造幣頭年報

第七 同シク一千八百七十五年六月二十日ヲ以テ終レル一歲期



分

第八 同シク一千八百七十六年六月三十日ヲ以テ終レル歳期

分

第九 一千八百七十七年會計一ノ有様ニ関シタル大藏卿年報

第十 一千八百七十八年四月一日及ヒ同シク四日ニ催フサレ

タル銀行及ヒ貨幣委員ト大藏卿オノレブル、ジョン、セルマ

ン氏トノ間ニ出タル評議誌

第十二 貨幣恢復條例ニ涉リ内閣理財委員ト大藏卿オノレブ

ル、ジョン、セルマン氏トノ間ニ出タル議論誌

第十三 一千八百七十三年六月三十一日発兑合衆國々債一覽

第十四 一千八百七十五年発兑國立銀行條例及ヒ改正條例

第十五 合衆國銀貨委員報告書

### 第四号憑書

(フエレヘルググ氏カ差出セル者)

一千八百七十年四月二十五日ヲ以テ合衆國大藏卿ヨリ

差出サレタル同國造幣局及ヒ造幣ノ一ニ涉レル法律改

正按ニ付キ通貨監督ジョン、ゼイ、ノックス氏カ報告及ヒ

通信紙萃(但シ合衆國政府ニ於テ彼ノ一立金貨ノ制度

ヲ啓キタルハ眞実不注意ヨリ出タル者ナルヤ否ノ疑

問ニ関スルナリ)

第一ノックス氏ハ其報告書第十葉ニ於テ金銀帛貨ノ履歴ヲ述

ヘ續テ第十一葉ニ至リ「銀貨ノ一及ヒ最早ヤ其本位貨幣タ

ラサル」ト表題サレタル論目ヲ擧ケ説ク「シテ曰ク

以上既ニ其履歴如何ヲ擧タル銀貨ノ鑄造ハ當議案ノ主

意ニ依レハ最早ヤ之ヲ罷ムヘキ」



現今行ハル、処ノ金貨弗ハ当議案ノ主意ニ依レハ專  
本位弗貨ト見做スヘク銀貨弗ハ向後之ヲ廢スヘキ一  
第二リンダلمان氏ハ同報告ニ添附シタル造幣議案評論ト題  
シタル篇中第二十五葉ニ至リ説テ曰ク

「當改正議案ニ依レハ銀一弗貨半<sup>ダイム</sup>及ヒ三<sup>セント</sup>貨  
ハ最早ヤ廢止ニ屬スヘク唯タ金貨ノミヲ以テ貨幣本位  
トナシ金貨弗ヲ以テ凡テ價ノ起標トナス者ナリ但シ<sup>ダ</sup>  
イム<sup>以下</sup>半弗以上ノ諸銀貨ハ向後帝ニ副用貨幣タルニ  
過キストセリ」

第三イ、ビ、イリラット氏ヨリ合衆國貨幣總督ニ贈ラレタル書簡  
中銀貨ノ一及ヒ其本位貨幣タルヲ罷ル<sup>ト</sup>ト題シタル一章  
ヲ舉タリ其文ニ曰ク  
「今回議案ノ赴キハ向後銀貨弗ヲ罷ルニアリ而シテ之

添附セル報告書中從來仕来リノ本位銀貨弗ノ代リニ其  
實價<sup>メ</sup>キ<sup>レ</sup>コ<sup>ヒ</sup>ヤ<sup>スト</sup>ル<sup>銀</sup>貨<sup>ニ</sup>等<sup>シ</sup>キ貿易銀ヲ鑄製シ  
之ヲ用ナテ可ナラン<sup>ト</sup>ヲ告示セリ」



第五号憑書

魯細亞政府ヲシテ銀貨鑄造ノ一ヲ罷ルニ至ラシメタル

源由

一 銀貨ヲ以テ貨幣ノ位ト為スノ國ニ於テ其銀貨ノ價其法律上  
 負債ヲ拂フニ足ルヘキ紙幣ノ價ニ比シテ尚ホ一層低卑ナル  
 ニ赴カシムルコトアルハ獨リ貨幣ニ接スル法律ノ制御ニ出ル  
 ノ外ナシ即テ法律ノ強ヒテ紙幣ヲシテ之カ代表スル所ノ價  
 ト全ク等シキ相場ヲ以テ通用セシムルコトアルニ由ルナリ尤  
 モ理論上ヨリ之ヲ謂フ片ハ若シ法律ノ其力ヲ失フコトナクハ  
 紙幣ノ價ハ其代表スル處ノ價ヨリ貴キヲ得ス又卑キヲ得サ  
 ルノ理ナリ今若シ近来ノ銀價下落ヲシテ曾テ彼ノ交換スヘ  
 キ信憑書(魯國紙幣ニ此名アリ)廢止ノ前ニテタリトセハ其  
 下落ノ原因ハ必ス右信憑ノ銀ト共ニ下落シ即チ他方ニ於テ



金價ノ從テ騰貴シタルヨリ出タル者ト云ヒテ可ナラン  
 一然リト虽最早ヤ交換スヘキ紙幣ヲ廢止シタル后凡テ紙幣ナ  
 ル者ハ法律ノ強ヒテ之ニ價ヲ附シ内外ヲ論ハス商業上百投  
 ノ取引ニ際シ法定ノ價ヲ保存シ且ツ其價ニテ金ト兩替シ得  
 ヘキノ能力ヲ具ヘシメタルニ至テハ最早ヤ銀貨ト紙幣トノ  
 關係ハ全ク敗レテ地ニ墮ルヘシ此時ニ當テハ凡テ紙幣ノ相  
 場ハ第一其發行高ト其國內融通ノタメニ之ヲ需用スル高ト  
 ノ割合如何ニ関シ第二魯細亞國ト外國トノ通商權衡(物貨ニ  
 モセヨ貨幣ニモセヨ)即チ兩替相場ノ如何ニ係レリ  
 一以上ノ理由ニ依リ最早ヤ紙幣ト銀貨トノ關係相ヒ敗ルニ  
 際シテハ其各外物ニ接スルノ關係ヲ異ニシ又各金貨ニ接ス  
 ルノ關係ヲ同フセサルヘキノ理ナリ而メ此實實際ニ出現シ  
 タルナリ

一 一千八百七十六年六月ニ於テ龍動市場本位銀一「オンス」ノ價  
 ハ三志十一片(此ニ於テ一ト十九、六で、割合ヲ得)トナリテ即  
 チ金ニ比スレハ百分ノ二十七、一ニテ減シタリ  
 一 セント、ポイントル、ポルグ府ニ於テ半「イムブリヤム」金貨ハ信  
 憑單ニテ六「ルーブル」二十六「ゴベツク」ナリシヲ以テ其定價五  
 「ルウブル」十五「ゴベツク」ニ比スレハ一「ルウブル」十一「ゴベツク」  
 ノ増價ヲ示シタリ故ニ信憑單即チ紙幣ハ金貨ニ比スレハ其  
 百分ノ二十七、七四ヲ減少シタリト云フヘシ然レ之ヲ以テ銀  
 貨ニ比スレハ紙幣尚ホ百分ノ五、三八強キニ當タルヲ見タリ  
 一 事情如斯クナリシヲ以テ即チ左ニ由テ之ヲ證スルカ如ク當  
 時凡テ魯細亞國內ニ銀ヲ輸入シ此處ニテ之ヲ「ルウブル」紙幣  
 ニ鑄造スルハ大ニ有益ナル所業ナリキ即チ  
 一 一千八百七十六年六月二十四日ヨリ同シク七月六日ニ至ル



マテセント、ピイトルスボルグ府ノ現金市場一「ルウブル」ニ付  
キ三十一ト三十二分ノ七片ノ割合ニ據ル片ハ則チ紙幣一千  
「ルウブル」ヲ以テ龍動ニ向ケ百三十封一志六片ノ兩ニ付  
振出し能ハタルナリ

一然ルニ當時龍動市場ノ相場本位銀一「オンス」ニ付十三志十一  
片ノ割合ニ據レハ則チ巨市場ニ於テ彼ノ百三十封一志六片  
ヲ以テ純銀六百六十四ト四十七分ノ十「オンス」即チ魯細重  
量ニテ四十六磅六十四「グロト」ニツクヲ買求シ得ヘキ割合ナ  
リ而シテ今若シ右量ノ銀ヲ以テ之ヲセント、ピイトルスボル  
グノ造幣局ニ携フル片ハ則チ目形一磅ニ付キ二十二「ルウブ  
ル」七十五「コペック」ノ割合ニテ千六十一「ルウブル」六十セ「コペ  
ック」ノ銀貨ヲ鑄造シ貰ヒ受ルヲ待タリ故ニ右銀貨高ト初  
メ龍動ニ向ケ振出し、為替切手買求ノタメ費サレタル千

「ルウブル」ノ高トラ比較、レハ即チ六十一「ルウブル」六十セ「コ  
ペック」ノ利潤即チ元價百分ノ六、一六ニ當レル利潤ヲ来タレ  
タルヘシ尤モ右ノ勘定ハ法律ノ力ヲ以テ正銀貨モ亦信憑モ  
齊シク其表面本条ノ價ニテ之ヲ遣り取スヘキヲ嚴令シタ  
ル上ノ思考ニ出テシナリ(但シ右勘定中ニハ運輸入費等ヲ算  
入セルナリ然レ雖ヒ之ヲ減算スルトモ尚ホ多分ノ利潤ヲ見  
ルベシ且ツ今其利潤ヲハ原價百分ノ六、一六ト算出シ初メ之  
ヲ五、三八ト算出シタル雙方間ノ差違ハ初メハセント、ピイト  
ルスボルグ府ニ於ケル金相場ニ基キテ計算ヲ立今ハ即チ龍  
動府為替相場ニ依テ之ヲ立ツレハナリ固ヨリ兩地間ノ相場  
ハ常ニ一定セサルナリト知ル可シ

魯細重代議者

ソワールナル識



